
品格ある新たな価値観の創造

人と自然，伝統文化と最新技術の共存

大畑地区では
里山の緑や史跡，獅子舞など
昔から守り伝えられてきた自然や伝統・文化を大切にしながら
一方で，生活観や土地利用面で新しい考えを持ち込み
品格ある大畑の里として
豊かな暮らしに向けて
『新たな価値観』をみんなで創造してゆきます

大畑里づくり計画

平成 14 年 3 月

大畑里づくり協議会

目次

地区の現況	2
地区の概況	2
地域の ^{いわれ} 謂れ	3
伝統文化と史跡	3
農業	6
生活環境	12
景観	15
土地利用	17
里づくり計画とは	18
里づくり計画を策定するにあたって	21
里づくり計画の理念	21
里づくり計画の策定方針	21
計画策定の手法	21
イメージ	22
課題と計画	24
営農	24
生活環境整備	30
環境整備	35
土地利用	36
景観形成	39
里づくりをめざす大畑の思い出あれこれ	40
参考	45
大畑 里づくり協議会規約	45
大畑里づくり協議会活動実績	46
大畑里づくり協議会 役員名簿	46

地区の現況

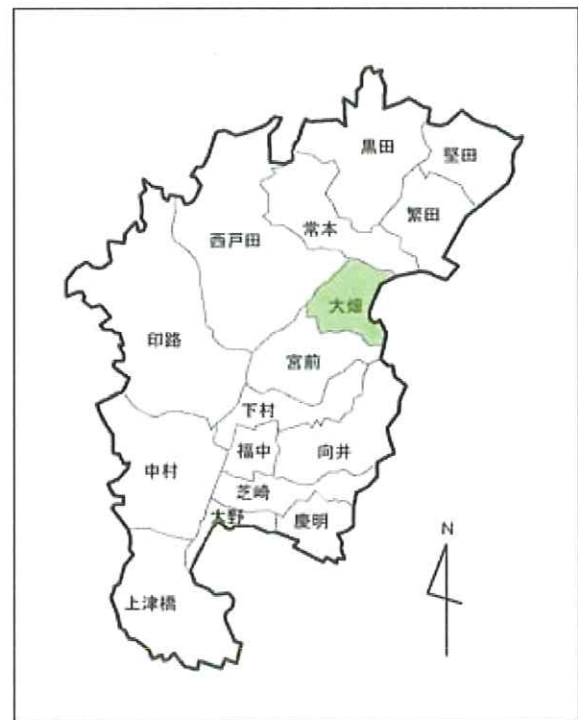
地区の概況

平野町は西区の西部にあり、明石市に一部が隣接しています。明石川が平野町を東西に分断する形で流れており、明石川沿いの平坦地が優良な農地を形成しています。また、明石から玉津、平野を經由して神出、三木市に至る国道175号線が地域の幹線道路です。



平野町大畑地区は、平野町中央部の東の端に位置し、西側を流れる明石川と西神ニュータウンにはさまれ、南は宮前、西は西戸田、北は常本に接しています。

集落の生活道路としては市道高和宮前線が集落の中ほどを貫通し、地域の生活に欠かせない道路となっています。昔から山の陰で、平野の朝日は遅いという印象を持っています。



現在、37.7haの区域面積に戸数26戸、人口127名が居住し、平野町では中規模の集落です。当集落も、他地区と同様、高齢化が進みつつありますが、現在では小学生は小さな集落の割りには多く、15名います。ただ、その後また少なくなる傾向にあり、地域に及ぼす少子化の影響はいずれ顕在化するでしょう。

地区の農業は、1戸当たり平均122aの経営耕地面積と、西区や平野町の平均よりも多く、以前は肥沃で優良な農地を利用して水稻を中心に、切花、野菜生産も加えた専業農業が営まれていましたが、現在は兼業化が進んでいます。

集落の世帯人口

年度	総戸数	総人口	農家戸数	農家人口
1985	24	113	20	104
1990	26	129	18	109
1995	26	127	18	102
2000			18	105

地域のいわれ謂れ

明石川の兩岸の平地に開けた平野町や押部谷町の中で、当大畑集落より上流に「田」とつく集落が多くみられます。

例えば、平野町の西戸田、堅田、繁田、黒田、押部谷町の養田、和田、細田がそれに該当します。

昔は大畑は田が少なく、畑が多いので「大畑」と名付けられたようで、年配者はいまだに「おばたけ」と呼んでいます。

昔から、土地、水には苦勞をし、雨乞いや、五穀豊穰を切に祈願してきたようです。20数年前にはほ場整備も終え、池や東播用水のお蔭で灌漑用水の心配も全く無くなった今、実にありがたいことだと思っています。

伝統文化と史跡

氏神に奉納する獅子舞

かつて、水不足に悩まされながら、何とか無事秋の収穫を得た喜びと、お礼の心を込めて、大畑村では宮前と同じ氏神である春日神社の秋祭りに獅子舞を奉納していました。獅子舞が何時ごろから奉納されるようになったのかは定かではありませんが、恐らく江戸中期からのことと思われる。しかし、戦前の昭和12年から20年までの8年間は、若者が、皆兵役に出て、人手不足で獅子を舞うことができませんでした。

昭和20年の終戦の後は、若者の復員の喜びと集落の活性化を願って獅子舞を再開しました。当時は皆が張り切って結束していたように思います。

ところが、戦後の人口の都市集中と、高度経済成長等で、生活の余裕もなくなり、35年に再度の中止を余儀なくされました。その後、平成8年に復活させるまでには、

38年間の歳月を要しました。

長い空白期間があったため、獅子舞を伝承できる先輩も少なくなり、復活が危ぶまれましたが、たまたま阪神淡路大震災で被災した薬師寺仁王門の修復もあり、また他村の春日神社氏子衆からの要望も加わり、次世代への継承の機運が高まり、そんな中、有志世話係の肝入りで、獅子舞復活の運びとなりました。

しかし、経験者の少なくなってしまう中、皆の記憶を継ぎ足し、模索しながら積み上げてまいりました。それは今も続いており、着実に進展しつつあることから一層の充実、発展が期待されています。

大畑の獅子舞は、おたふく、ひょっとこ[魁舞(さきまい)といい小学生が行う]が獅子に戯れるように舞い、他に鼻高がいて、これらを援助するように動く舞いで、獅子は練習用1基を含めて3基あります。

大畑の獅子舞の内容は、第一から第五まであります。

1	「鈴の舞」	鈴を持つひょっとこの魁舞で獅子が舞う。
2	「花遊び」	榊に紅白の花(ぼたん)をつけ、おたふく2人の魁舞で獅子が舞う。
3	「幣の舞」	檜の板に五色の幣をつけ、ひょっとこ2人の魁舞で獅子が舞う。
4	「いいらい」	薙刀を持ち毬を転がして魁舞し、獅子が戯れ舞う
5	「矢車」	獅子のみで舞う。



獅子舞の練習

祭りの当日、宮入りするとまず、お神楽と称して、御幣と鈴を持って関係者一同揃って本殿に参り、続いて南・北・正面先石段脇の小宮を巡り、能舞台にて舞います。

これらの獅子舞を通して氏子衆の意志の疎通を図り、結束を固め、集落の活性化と繁栄を願っています。

埋蔵文化財

明石川中流域の沖積平野に立地する平野町の辺りは、居住に適した条件にあり、古くから人々が生活していた痕跡が確認されています。

特に、弥生時代には明石川の流域に大規模な集落が連綿と営まれており、拠点的な役割を果たしてきたものと考えられます。

その証となる遺跡が平野町にもたくさん発見され、大畑地区の出土品としては、縄文式時代後期の深鉢、浅鉢、弥生時代中期の竪穴住居、石器、弥生時代後期の多種の土器等貴重な埋蔵文化財が発掘されています。

大歳神社・稲荷神社の祭り

農家の男性を中心に、1月と9月に大歳神社に集まって御祓いを受け、村中の安全と親睦を、7月の稲穂の出る前にはこの年の豊作と、暑い夏の安息を願っての総祈祷（そうぎとう）を行います。

青木稲荷大明神社では、2月の初午、9月6日の誕生祭、12月23日（二重そう）の年3回のお祭りをします。また、その年の大寒の内の1日を「寒ぶれまい（施行）」といって、米3升、小豆3合3勺を赤飯にして、お結びを作り、村中の各祠などに供えて回る。食べ物を司る神への感謝か、神の使いのキツネへの施しか、由来は分かり

ませんが、婦人たちによってずっと引き継がれています。

薬師寺・仁王尊像

薬師寺は、もと東地山晴雲寺内の薬師堂でありましたが、現在では、薬師堂のみ残り、晴雲寺の本尊であった薬師如来を祀り、東地山薬師堂と称しています。

晴雲寺は、奈良時代霊亀2（716）年藤原宇合（うまかい）の開基で、本尊の薬師如来は行基の作であると言われてい

ます。天正8（1580）年秀吉の三木城攻略の際、攻め滅ぼされて伽藍（がらん）は焼失し、山門の3分の1程度のみが残りました。

その山門を現在地に移し仁王尊像を安置しました。仁王尊像は傳教大師一刀三礼の作との説もあり、両仁王像共に樟材の一木造りです（平成9年に神戸市有形文化財指定彫刻、文化財の項参照）。

その後、僅かに小院を営み、100余年を経て元禄の末（1700年頃）再興。その後140余年を経て嘉永2（1849）年8月8日、実に6年の歳月をかけ、時の監守皆阿全空大徳によって、再度建立され、時宗遊行派に属する明石法音寺末寺となりました。その後100余年を経て、昭和28（1953）年宗教法人設立と共に曹洞宗（禅宗）薬師寺となりました。



薬師寺



薬師寺山門

平成7年1月の阪神淡路大震災により、仁王尊像、山門ともに半壊状態となりましたが、仁王尊像は、京都・山城にて2ヵ年を要して修復し、平成9年6月帰山しました。一方山門も、市の援助を得て修復し、平成の大改修は完了しました。

なお、当薬師寺は明石四国第四十九番の霊場です。また、裏の山には四国八十八カ所にちなんだ霊場めぐりの仏像が安置され「大師堂宇建設成功之碑 明治45年2月」と記されています。かつて、この山を巡礼する人々の姿も見受けられたものです。

寺の前面の広場は、現在児童公園として、一部遊具なども据え、子ども達の遊び場として開放されています。

毎年夏休みになると、子ども達は、お盆の後、早朝から住職の指導で、座禅会に参加します。

その後、般若心経や舍利礼文などを大声で唱え、本堂一杯に子どもの声が響きわたる賑やかな一時です。これは地蔵盆の8月24日まで続けられます。



薬師寺裏山の霊場めぐりの仏像

農業

の内、12.5ha、57.8%に水稻が、1.5haで野菜、1.0haで花が栽培され、残りはその他の転作対応となっています。

営農形態

大畑の40～50歳代の女性は、あまり農業に関わっていないようです。これは非農家からの嫁入りが多く、またパートに出て日常は農業に携わることの無い人が多いからです。

また、野菜も店で買って食べている場合も多いようで、これは野菜を栽培するよりパートの収入の方が多という考え方があるためです。今はパートの働き口も結構あるが、不景気の影響や、40歳台になるとパートの口も次第に少なくなる傾向にあります。

聞き取り調査の結果、女性で、結婚する時に農業をしないという条件で結婚した人もあります。

農業への関心を向けるようにするにはどうしたらよいでしょうか。

大畑は、平均経営耕地面積が122aと非常に大きく、18戸のうち専業農家は10戸(56%)となっています。

水稻

コシヒカリ、ドントコイ、キヌヒカリがほぼ同率で植えられています。もち米の栽培が少なくなっています。もち米は手間をかけて作っても自家消費は少なく、買ったほうが楽です。その結果、最近はおもち米は作らなくなりました。

スズメの忌避手段として爆音機を使った時に、ニュータウン側から苦情がありま

した。西農政事務所から連絡を受け、爆音機を止めた経緯があります。爆音機は苦情が多く、農家には時間帯や音量で協力してもらっています。

ススキ等の雑草の生えている場所では、スズメが生息し、稲が出穂するころにはスズメの害が出ています。スズメの防除には、稲の出穂前にテープをはるのが一番手間が掛からず効果があると言われています。しかし、出穂前にテープをはらなければ効果はありません。

米の調整のために、農協のカントリーエレベーターには3戸が米を持ち込んでいます。カントリーエレベーターに持ち込むと、他の地区の米と混ざり、まぶくなるという意識があり、距離的には近いのですが、あまり持ち込んでいません。また農協のカントリーエレベーターは米を集める地域が広すぎて、米の土地柄による特色が失われるように思います。



砂池の農地

地区内の、砂池という字の農地は湿田が多く、名前とは逆に粘土質の地質です。日当たりはあまり良くないが、土質としては米作に適しているようです。反対に明石川

作付	ドントコイ	コシヒカリ	キヌヒカリ	水稻計	野菜	花卉	飼料作物	景観作物	果樹	カイハイ	地力増進	自己保全	調整水田	合計
面積 a	427.5	437.9	386.3	1,251.7	152.5	97.7	146.8	0.0	10.3	44.9	364.8	10.2	93.1	2,172.0
%	34.2	35.0	30.9	57.6	7.0	4.5	6.8	0.0	0.5	2.1	16.8	0.5	4.3	100.0

沿いの農地は昔の洪水の影響で砂地が多く、ほ場整備事業の時に客土を施したが、稲を植えても砂の上に植えているという感じのほ場もあります。

稲の直播は以前に地区でも経験がありますが、雑草対策に苦労します。実施にあたっては除草剤の施用が決め手ですが、除草剤代が高くつきます。

平成13年度産の米は、夏場の夜温の上昇で全般的に質が悪かったようです。

大畑は平野町の中ではドントコイの面積が結構多いようですが、病気に弱いという欠点があり、これ以上増えることはなく、むしろ減る傾向にあります。他に変わった品種の米を栽培している農家も一部あります。

秋祭りの時に地元の米として意識して食べたが、冷飯であっても大変美味しかったと評判です。



カーネーションの栽培

花

カーネーションは、昭和50年代に比べて面積は減りつつあります。一部は、現在は北海道に飛行機を使って関空から出荷していますが、現在、カジュアルフラワーの人気に乗って、スプレー咲きの生産が主体ではあるが、収穫に手数がかかり、大輪の生産も狙っています。

特産品

昔は水利の便が悪く農業用水が不足していたため、綿を栽培していました。

果樹

イチジクを現在10a栽培されている農家がありますが、さらにイチジクの増反を計画されています。



イチジクの栽培

野菜・軟弱野菜

野菜は端境期には値が張る時がありますが、豊作になれば価格は低迷します。

ダイコンも昔は良いものを自家選抜して、種子を取ってその家独特の品種を確保していました。しかし、今は手間もかかるのでそんなことはしていません。

農家は出来るだけ良いものを作りたいのですが、技術だけでなく、安い種子と高い種子ではやっぱり品物の品質が違います。また、最近、有機栽培もさることながら、野菜の硝酸態窒素の過剰が問題にされつつあります。堆肥が良く効いて青々した草は、牛は食べないようで、牛は本能的に硝酸態窒素の過剰の草は避けるようです。ただ食べるものが無くなれば、そんな草も食べて硝酸態窒素中毒になることもあります。含有硝酸態窒素の問題はいずれ重視されるようになってきそうです。

軟弱野菜を中心に出荷する農家は1戸で、ねぎを中心に出荷しています。冬はい

けるが、夏場は暑いので軟弱野菜は難しい時があります。軟弱野菜も周年で良いものを生産する場合はビニールハウスが必要です。

畜産

現在酪農も地区内にあります。副産物として生産される牛糞は堆肥として還元しています。時々、近所の小学生が牛と接して遊んでおり、また中学生の教育の一環としての研修も受け入れています。



また、大畑ではアイガモ、アヒルも飼われています。

貸し農園

貸し農園施設を個人で経営するには困難が伴うようで、貸し農園を個人で増やしていくことは、周辺の環境を悪化していく恐れがあります。



既存の貸し農園

貸し農園でいつもトイレの整備が問題になり、また、駐車場や周辺にできる個々の農具入れやゴミの処理が環境面から問題になります。

貸し農園は、農地の良い利用法ですが、マナーが悪いのが困ります。今の状態であれば、これ以上貸し農園は増やす状況にはありません。増やすとなれば里づくり協議会ベースで考えてみる必要があります。

直売

ゲートボールを高齢の女性も楽しんでいます。それもやりながら、余暇の一部を裂いて野菜を植えて売って見たら、団地の消費者等も喜び、またお金になれば作る励みになります。

農産物で何をつくるにも1次産業としての生産だけでは利益が低く、2次、3次産業として加工直売すれば、付加価値ができます。

ただし、その体制を作っていくのも大変ですが、朝市を開設するという方法もあります。直売所を継続していくとなれば、生産体制も大変で、現在高齢者が中心となって色々なものを植えています。野菜を作って直売する場合は多品目を揃える方が有利だと思います。

櫛谷の松本でも集落で直売所を開設して、女性が中心になってうまく運営しています。大畑もニュータウンとの関係も良く、直売所を開設すれば、双方にメリットがありそうです。

印路の経済センターの前には農協の直売所がありますが、よく売れています。ただし、新たに直売所に出荷する農家の枠はなく、直売所開設にあたって当初平野管内の農家全てに参加を呼びかけていなかったため、再度出荷者を募集しなおして欲しいという意見も出ています。

転作

大畑地区の平成 14 年度転作面積は前年と大きくは変わらない様ですが、大畑の転作内容は、野菜等での積極的な転作ではありません。それは兼業農家が多く、転作に時間をかけられないという理由で、結果として、面積消化のための義務的転作となっています。

各戸に地域の転作割り当て率が何パーセントであると農会長が伝令すると、当初は達成率 110%ぐらいで計画があがってきますが、実施の段階で 101%程度に落ち着き、転作実施に当たっては特に難しい面はありません。一筆単位で個々の農家が少しずつ余分に転作されるので、その部分が累積されて 1%分になる仕組みです。

転作での野菜づくりは家庭菜園が主で他の転作種目は地力増進作物としてのソルゴ、レンゲが中心で、当地区での景観作物での対応は少ないようです。

市外他地区の 1 事例ですが、加美町岩座神地区も 4 割は減反を実施しており、どここの地区でも転換作物の選定が重要になっています。

たとえば加美町岩座神では景観形成作物としてソバを栽培して、そば粉を集落の活性化に活用しています。収穫後の落下種子が自然に生えてきますが、これも「おしたし」として活用して、食卓を彩っています。そのソバが秋には美しい景観を作り出し、都会の人が写真をとりに来ています。長崎県の普賢岳周辺でも、タバコ後にソバをたくさん生産している事例があります。

出荷販売

今まで白菜を明石へ出していました、直売に持ち込んでいる農家もあります。これからは野菜の出荷の工夫も大切で、出荷の工夫で売上げも変わってきます。

枝豆を工夫をこらして枝ごと出荷して、

10a 当たり 250 万円の売上をあげたといううわさも聞いています。

農産物の加工

大畑では昔から(現在で 3 代目)麴を作っている家があり、味噌を作る機械も備えています。今では西区では出合と大畑にしかありません。

麴づくりは 12 月から 3 月の仕事で、昔は、米をあずかって多いときは 80L 程度も作っていたようですが、各農家ではかまどがなくなったので、味噌の豆も炊きにくくなり、需要も減ってきていますが、

若い人は甘酒をあまり飲まなくなったので、1 戸当たりの需要が減って事業として成り立ちにくい状況ですが、例年大阪の専門店から種麴を仕入れて麴を作っています。菌株によって甘酒の甘味も違うようで、甘味の少ないときは種菌の変更をして品質を維持しています。

ニュータウンに住む大畑出身の人を通じて何人かの人が買いに来ていますが、宣伝していないので、昔からのお客さん以外はあまり知られていません。ただ貸し農園を作って交流のある人が何人か買いに来ています。

昨年も押部谷の性海寺の行事で甘酒を 300 人分準備しましたが、盛況で 500 人が参加し、甘くて美味しいと大畑の甘酒が評判になりました。

農業体験

以前、レンゲを植えて都会の幼稚園児を招待した時に、注意してもビニールの切れ端を田んぼに捨てられて、後で困りました。

次は平野の幼稚園を招待したが、こちらは後始末をきれいにしてくれました。

多可郡加美町では棚田オーナー制度が実施され都市の住民約100名が交流に参加しています。加えて滞在型の施設もできてハードの整備がすすみつつあり、さらに中山間地に関する助成を受け、活動の資金にしています。また、集落で共同でかしわの炊き込みご飯を売り出し、地鶏を飼って売上を伸ばしているようです。

葉わさびの加工品も価格は結構高値ですが、品質が良いので売上を伸ばしているようで、要は土地の特徴や立地条件を最大にいかすことが基本です。

オーナー制度についても、個々の農家にやる気がないと出来ないし、すぐには儲けにならず、地域の行事が一年中あって大変ですが、参加している農家の気持ちとしては楽しいようです。都会との交流の場を持ち、都会から何百人もがやってきて集落の雰囲気徐徐に明るくなってきています。

大畑とは色々と条件が違うが、農村としての共通点もあり、これを参考に色んな面で農業を考え直せば良いと思います。

高齢者は時間的な余裕もあり、今後中心となる機会も多いと思いますが、高齢者だけでなく皆で力をあわせることが必要です。

農業の機械化推進

農業面では、特に稲作は機械化が進み楽になりました。年々農業機械が改良され、新製品が出るので、耐用年数が過ぎ故障をするとすぐ買い換えてしまいます。だから生産コストは上がっています。

農機具は個人所有でコスト高につながるようですけれども、仕方がないとの思いが強いようです。夫が1人で機械を使って農業で頑張っているのに、妻も農業機械が必要だと言われたら買い替えも仕方が無いと考えてしまうのが大畑地区の現状です。農業機械の農協のリースがあれば利用



コンバイン

したいが、それも無く、農作業の段取りで、個人所有は仕方の無い状況で、古い機械が故障して修繕が複雑になると新しい機械を買ってしまいます。

性能の良い機械の作業を見ていると、古い機械で作業するのがまどろっこしくなります。機械代が高いのはわかっていますが、皆さん仕方がないと思っています。

農業機械の共同利用の話もありますが、共同利用は今までの経験から難しい場合が多くあり、酪農でサイロを共同で整備したときの苦勞がよみがえってきます。

また、裏作の麦に米用の汎用コンバインのを有効活用を試みましたが、機械に残った麦粒が米に混ざり、選別に手間がかかりました。米の品質にも悪影響を及ぼしたという苦い経験もあります。

多面的機能



きれいに管理された畦と水路の法面

アンケートでは、専業農家は少ないが、何らかの形で農業にかかわっている人が8割程度あり、緑が多く恵まれていると感じている人は多いようです。

水路の法面等も含めた管理については、「もより(集落の班的組織の総称)」が草刈りをしています。雑草が繁茂すると、カメムシが巣くい、周辺の田んぼに悪影響を及ぼします。

モア方式による自走式草刈り機もあります。しかし、農協でもあまり売れていないようで、やっぱり肩掛け式の草刈り機にはかなわないようです。また、草刈りの時に、境界の杭が草刈りの邪魔になり、作業上で危険です。

アンケートでは、農地として利用されずに荒れている所があり、見苦しいという意見も多くありましたが、これも農地の存在を否定するものではなく、管理を徹底して欲しいという意見です。

農業後継者

農業後継者の確保が難しいと言われていますが、農家の親も子どもは農外で就職して欲しいという潜在的な気持ちがあるのではないかと感じられます。

農業後継者問題については、今大畑は世代交代の端境期になっていますが、親が元気な間は親に農業を任せて、外で働ける間は働きに出ているという農家世帯が多いようです。

ただし、アンケートでは3割程度の方が今後できれば農業はやりたくないと考えています。その内訳をみると、特に40代までの若い世代の率が高い傾向が出ています。

ほ場整備事業

ほ場整備事業によるパイプラインの修理は年に2ヶ所程度あります。石油ショッ

クの時に材料不足で一部石綿パイプを入れています。故障の時には取替えを進めています。まだ半分程が残っています。特に鋳物のジョイント部分の消耗が激しいようです。なお、パイプは平均深度1m程度に埋まっています。

大畑には、農業用水路の法面が広くて、目立つところがあり、管理も大変で有効利用も必要です。



管理が大変な水路の法面

生活環境

全般

昔と比較すると、まず、生活道路が変わりました。昔は子どもは学校の行き帰りに道草を食って 30 分もかかって通学していました。当時の大人も平野からバスにのるために押部谷辺りから自転車に乗って大畑地区を通っておられ、その人達のうわさ話を井戸端会議でしていたのが懐かしく思い出されます。

平野の中でも大畑は特に不便な集落であるという意識がありましたが、これはバス路線があっても便数が少なく、バス停が集落から離れていたからで、今は車社会の到来により解消しました。

大畑は明石や市街地に比較して寒いという感じがしました。病院もなく、西戸田からバスで明石まで出て行く人も多かったが、今は明石に出る人も少なくなりました。

子どもの頃は、繁田集落に店があり、ちょっとした物はそこで買っていました。玉津に店が増えだした頃は玉津に買い物に行くことが多かったようです。

里山の開発により造成された、ニュータウンを取り込んだ生活に地区の住民は順応しています。

風景はのんびりしているが、農家は昔からの行事、雑用、付き合い等が多いということで、若い人には農家は色々と大変だとの実感があり、暮らしにくい面もあるようです。

組織

自治会の構成戸数は 26 戸で、自治会費として年に 15,000 円を徴収しています。自治会は原則平均月 1 回の割りで集まることにしているが、実態としては必要な時に集まっています。また 2 年に 1 回程度、

自治会で旅行をしています。

春日神社の祭りは自治会が中心になって関わっており、祭りの準備として 4 回程度集まっています。大畑の代表として自治会から役員 3 人が出ています。

農会では各農家から農地 1 m²当たり 2 円程度の会費を徴収しています。地域では農会がやはり重要な役割を担っており、地区内の水路等の草刈りも分担し、その時にあわせて公園の草刈りもしています。

老人会では年 2 回、平野町老人会に参加します。会員は体力に合わせて、缶ひろい等の軽いボランティアをしています。高齢者の有志 10 名程度でゲートボールを週 1 回程度催していますが、平野地区内でも結構強いので、その都度祝賀会を開催するのが楽しみです。

消防団は約 10 人の構成員で、本来の消防活動に加えて、祭りの行事のまかない等に活躍しています。

防火用水施設として、水槽 3 箇所、消火栓 5 箇所が農免道路と中筋に整備されています。

婦人会の定例の活動は、毎月の 26 日を集金日として、年金や公共料金の一部を集金します。その後で生花の稽古をしています。婦人会の親睦活動として、一泊二日で遠足に行っており、会員の 7 割程度が参加しています。

子供会も月 1 回程度集まっています。年に一度は親睦活動行事をしています。

交通

昔は静かで良かったが、今は外周道路を暴走族が走ったりして、うるさい時があり

ます。昔の静けさを知っている人にとっては特に交通騒音，振動に対する不安も多いようです。

大畑からニュータウンへ抜ける坂道で見通しが悪い箇所があり，お互い大回りして来るので危険です。道を広げて信号機を設置するというのも良い案です。それと，農道を抜けていく車が多すぎますし，通学道路では自転車通学の中学生が車と競合して危ない目にあっています。

なお，市へ移管していない農道は，市は管理しないということになっています。

利便性

昔はとにかく不便で，特にバスに乗り遅れると大変でしたが，今も押部谷から来るバスの便が少なく，岩岡に比べてもバスの便が悪いように思います。少し前までニュータウン行きの市バスがありましたが，乗客が少なく，赤字で，神姫バスとの競合もあって廃止になりました。現在は自家用車に頼り，車無しでは生活出来ないようになっています。アンケートでも交通機関の不便さについて，特に40歳代の方が意見を出しております。



回数は少ないがバスは重要な交通機関

外出するのは圧倒的に西神中央方面が多く，明石方面は少なくなっています。交通の手段は自家用車が6割程度で，続いて自転車，バイクの順になっています。

近くに商店や春日プラザ等があり買い物は市街地並の便利さで，望むものがすぐ

に入手でき，品揃えもよく，車を使用する場合は色々な場所が利用できるようになりました。

ただ，地区内にはコンビニも自動販売機もなく，食料，日用品の買物という点で不便ですが，逆に子どもが無駄遣いすることもなく，なければ無いなりで良いのではないかと感じることもあります。

車社会の中で大畑も生活が便利になり，良い傾向であります。道路，交通の手段の整備，車社会の到来は日常生活にすみずみにまで変化を及ぼし，便利さは人間のつながりをどこかで分断している面もあるかもしれません。

公共施設

神戸市は，平野のCCPとして西戸田に公園をつくる計画があります。また，チビッ子広場の整備計画もあります。

下水道が整備され非常によくなったが，都市ガスが未整備で，少し不便を感じています。ただし，震災の時はプロパンガスの方がメリットがあったという実績があります。地域の条件としては，J-PHONEの電波が入らないということが言われ改善が待たれます。

福祉施設

結婚して大畑に来た人は、当初はすごい田舎に来たという感じを受けたようです。ニュータウンが出来るまでは不便であって病院も無く、困ったこともありましたが、今は近くの西神ニュータウン春日プラザにも良い医院があります。

特定医療法人誠仁会が大畑地区に「老人保健施設ひらの」を建設し、平成12年2月から開設しています。近くに福祉施設があることは地域としても安心で、心丈夫なことと歓迎しています。

本地区が、健康、福祉、医療、健全な田園生活・憩いとゆとりを掲げて里づくりを実行するときの中核施設となります。



老人保健施設ひらの

治安維持

地区外ではあるが、通学歩道に草が生い茂っている所があります。里山の林も陰になり人目に付きにくく防犯面で心配があり、アンケートでも20代の女性を筆頭に、女性全般に防犯灯未整備箇所や竹やぶの陰地、空地の雑草等に通行時の不安を訴える意見が多くあります。

街路灯で電球が切れても放置されていたり、見通しが悪い所であるのにカーブミラーが無いのも気になります。

最近各地で犯罪も増え不用心になりました。戸締まりに気をつけるようにして

います。これも開発が地域や住民に及ぼした悪い例ですが、社会情勢の変化に対応の仕方を考えなければなりません。



見通しが悪く注意が必要な場所

防災

ため池は、今は防火用水に位置付けられています。目につきやすい所にあるのに少し殺風景な状況です。

衛生

アンケートによりますと害虫が多いということです。農村地域には特に蚊が多い傾向があるという指摘は、地球温暖化に向けて要注意事項となります。

ゴミ対策

道路沿いの畦、溝に空き缶、空き瓶を中心とする不法投棄が多く、特に通行自動車からの投棄が目立ちます。

アンケートでも不法投棄に対する関心が高いようで、特に40代の男性にその意識が高いようです。

家庭ゴミの収集場所は、現在は歩道上で済ませています。またカラスよけ対策もないので、時々ゴミが路上に散乱します。

草刈管理

外周道路の法面の草刈りが大変で、市に

要望して部分的には草刈りをしてもらえるようになっていきます。草がはえるとスズメ、害虫の巣になって農業面でも悪影響を及ぼします。また薬師谷のフェンスに草が茂っているが、私有地にかかっているので市から管理が出来ないと言う返事がありました。

明石川の土手の斜面は雑草が繁茂し、特につる植物が目につきます。

大畑では通学路の草刈りは自治会、農会、老人会等の努力で出来ています。

子どもを育てる環境

最近では当地区でも学校から帰ると、カバンを持ち替えてすぐに塾へ行く子供が多いようです。また子どもは自転車を持っており、昔に比べて行動範囲が広がっているので、昔は集落内で遊んだものですが、先日も慶明集落から子供が遊びに来ました。

ただ交通事故等、危険な環境は、子どもや孫を持つ世代の心配の種です。

伝統文化

獅子舞は震災の翌年に約 40 年ぶりで復活しました。

秋祭りを中心とする出演に備えて獅子舞の練習をしています。また地域の伝統行事として、県の秋祭りにも獅子舞が出演しています。

オリエンタルホテルで正月三が日に舞ってくれという要望も過去にありましたが、正月はこちらもゆっくりしたいので断ったことがあります。

平成 13 年度は獅子舞を西神中央でも披露しました。このように、西区の行事にも獅子舞は年に 1 度は参加しています。

集落内の付合い

風景はのんびりしているが、農家は昔か

らの行事、雑用、付き合い等が多く、結構忙しいということで、若い人は農家は色々大変なことがあると実感しており、たしかに暮らしにくい面もあるようです。

生活の活性化

地下水が湧いている、それを集落の池に導いてそこでコイも飼っています。

ニュータウンとの交流は、今のところは全くありません。



地下水が水路を通して池に入っている

洪水対策

戦前は明石川や池が氾濫し、何度も洪水に遭っています。そのため、常本との境にお大師さんが祭られています。

最近も明石川沿いの農地は、増水して危ない時がありました。

景観

遠景

昔は景色はよかったように思いますが、戦後一番の変化は自然の変わり様です。無くなったものを懐かしがるだけではなく、残っているものを少しでも守っていくことがこれからは大切です。その点から、明石川沿いの一体的な風景は、今後どのように取り扱っていくかが問題になります。

明石川の河川改修が進んで明石川の竹藪は今はなくなっています。

近景

薬師寺周辺は静かな雰囲気が残っています。

ありきたりの風景なので普段は見逃しがちですが、なくなっはじめてその貴重さが分かる風景もあります。

最近、農村の作業や施設が合理化され、農村風景に情緒が乏しくなりつつあります。

アンケートでは花壇等の整備に高い評価が与えられております。



のどかな遠景

ため池

西区の他の地区に比べて平野大畑には池が少ないようで、初めて来た人には、農業用水をどうして確保しているのかわからなかったそうです。以前はホタルもいたし、シイタケも栽培され、この辺りの山歩きも楽しいものでした。

地区内のため池も、今残っているものは集落の防火用水池としても活用されており、地下水が流れ込んでいるため、案外水質は良好です。

河川

明石川の改修が進んでいます。河川改修で治水の面では良くなっていますが、自然

工法と言う割には自然が無くなった感じがします。ただし、コンクリートの護岸が減りますと大雨のときに石が流れないか心配はあります。

昔はアユがいたということも聞いていますが、今はコイがたくさん増えています。「トライやる」で実習にきた中学生に遊びでコイをすくわせてあげると、熱中していました。これも自然との共生を考える上で大切なことだと思います。

里山

里山に登る道があって、皆が時々遊びに行きました。西神ニュータウンのある場所も40～50年前はマツタケ、シバハリが良く取れて、市場に出していました。またホタルもいました。

ニュータウンの用地買収交渉に当たり、集落では外周部分に緩衝帯となる里山を残すことを要望しましたが、ぎりぎりまでニュータウンになってしまいました。

昔から住んでいる人には、ニュータウンで里山が削られたのは寂しいし、削られた結果、外周道路の車の音もうるさくなりました。

里山が拓けすぎて、便利が良くなると、どこからでも人が地区に入れて不安な面もあります。最近外周道路に植えられた樹木が大きくなりつつあるのが救いです。



土地利用

西神ニュータウンへの分離

従来の大畑の内、字奥ノ谷、東山、伊勢谷の全部と字寸又、皿池尻、薬師西、砂池、源内の一部が西神ニュータウンの開発に伴って分離し、現在、西神ニュータウンの春日台地区となっています。

土地の流動化

現在、地区内の農地を含む土地を手放したい時は、一旦は自治会を通じて地元で流動化出来ないか検討し、地区内の土地が地区外の人に渡らないようにしています。そのため大畑の土地は今でもよく保全されています。

特定用途

地区内の高齢者福祉施設には現在100名程度が利用されており、それ以上に入居希望があることから、施設の拡張計画もあります。



里づくり計画とは

神戸市の貴重な魅力の一つに、北区・西区に広がる田園地域があります。この田園地域の人々が撫育する農地は、神戸市の総面積の約10%（5,500ha）を占め、農業粗生産額は政令指定都市の中でも上位を誇ってきました（農振地域10,512ha）。

しかしながら、近年、農業従事者の高齢化と後継者の減少とが相俟って、市街化調整区域の農地が虫食いの的に転用され、資材置き場、廃車置き場、駐車場等が増加し、農業を持続する環境や貴重な緑地資源が破壊されつつあります。

そこで神戸市では1996年4月に、都市近郊農業と田園環境を計画的に保全するための「人と自然との共生ゾーンの指定等に関する条例（以下、「共生ゾーン条例」）」が制定されました。「共生ゾーン条例」に基づいて既存の都市計画法や農業振興地域整備計画との整合性に配慮しながら、神戸市独自の土地利用計画として「農村用途区域」を指定するほか、農業の振興に関する計画や環境の整備に関する計画などを含めた「里づくり計画」が作られます。計画づくりの主体は『里づくり協議会』が担っています。この『里づくり協議会』の特色としては、協議会のメンバーに農家以外の人も加わることや、「農村用途区域」の計画に農振地域以外についても積極的に取り組むこと、さらには用途区域の変更をする場合に意向を反映する権限もあります。

里づくり計画に関連する上位計画

大畑地区における里づくり計画を策定する際の前提となる主な上位計画として、以下のものが挙げられます。

(1) 第4次神戸市基本計画

平成5年9月に「新・神戸市基本構想」が策定され、これを受けて、平成7年10月に2010年を目標として策定されたもので、平成7年1月に起きた阪神・淡路大震災の復興に取り組むために策定された「神戸市復興計画」の精神をも十分に踏まえています。里づくり計画の前提としては、本計画にある8つの重点プランの中の『人と環境の共生プラン』が該当しており、ここでは

- ① 新鮮で安全な食料を始めとする農畜産物を安定的に供給するとともに、農業のもつ自然空間の維持やアメニティの醸成などの多面的機能が発揮されるよう、環境にやさしい農業を推進し、人と自然とが共生するまちづくりを進める。
- ② 市域の自然的・社会的・経済的条件を最大限に生かすとともに、高度技術の開発・利用による生産性の向上と、付加価値の高い農水産物の開発によるブランド化を進め、活力ある農業の展開を図る。
- ③ 労働時間・所得を他産業従事者と同程度の水準とすることを目標に、高品質化や生産性・収益性の向上に努め、産業として成り立つ魅力ある農業を展開する。
- ④ 都市と農村の交流を促進し、市民に憩いと安らぎの場を提供するとともに、地域の活性化に資する農業の拠点を整備し、市民に親しまれ支持される農業をめざす。

という4つの基本方針が掲げられています。

(2) 第4次神戸市農漁業基本計画

第4次神戸市基本計画の中で、市域農漁業にも世界とふれあう市民創造都市・アー

バンリゾート都市づくりに貢献することが強く求められており、震災の教訓を生かした安全都市づくりの一翼を担うとともに、市民生活や地域の視点に立ち、自然と共生した魅力ある農漁業を市民とともに構築することによる活力ある農漁業の持続的発展を目指して、「第4次神戸市農漁業基本計画」が策定されました。その中で、地域に密着した「里づくり計画」で生産環境、生活環境、自然環境の保全と整備及び景観の創出を進め、都市住民との交流を積極的に進めることにより「活力と魅力あふれた快適農村」の実現が求められています。

(3) 区別計画

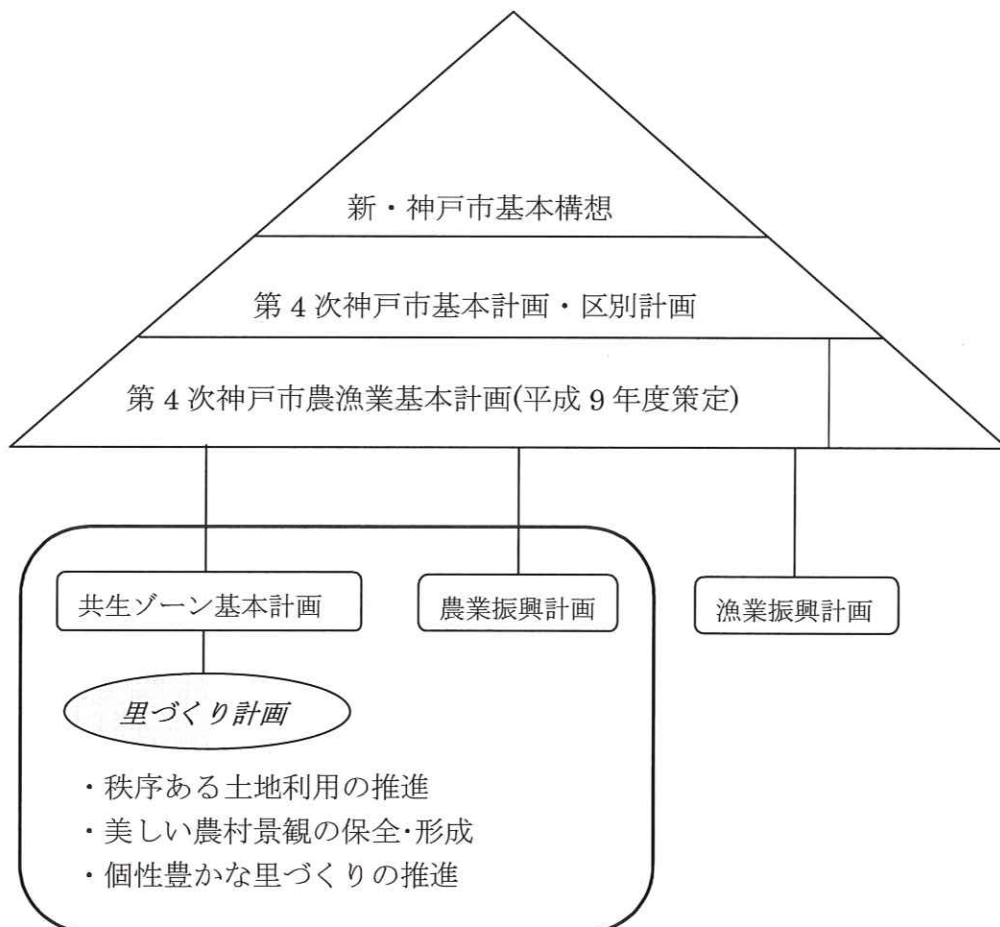
区別計画とは、市基本計画よりさらに身近な計画として、区のあるべき姿とその実

現のためのまちづくりにおける目標、施策の方向を区民に示す区単位の計画です。本計画も市基本計画と同様平成7年10月に2010年を目標として策定され、この中で平野地域のまちづくりについては「快適で住みよい田園環境の広がるまち」をめざし、明石川の環境整備、少年保養所跡地の活用の検討、大規模区民グラウンドの整備の検討、平野町南西部の計画的なまちづくりが事業として考えられています。

(4) 神戸市農業振興地域整備計画

本計画は第4次神戸市基本計画を受けて平成9年5月に改定されたものです。ここでは市の農業について、市街地と農業地域とが有機的に調和し、都市機能の発揮に寄与できるように以下の3つの方向から保全育

■ 里づくり計画の位置づけ



成に努めることとされています。

- ① 大都市に立地する有利性を生かした需要に応じた生産と、生産性の向上を図るために、米麦、園芸、畜産の3部門を土地利用上および農業経営上有機的に連携させる。また農地の流動化を促進して中核的担い手を中心とした市域農業を確立する。
- ② 可能な限り圃場整備事業等の土地基盤整備事業を実施し、経営規模の拡大を図る。また、農業近代化施設を適切に配置して、生産・集出荷・販売の合理化を図る。
- ③ 農業集落の保健性、快適性、利便性、文化性、安全性を守るため、緊急災害時にも対応した道路・下水道の整備、集会施設、農村公園、体育施設等の生産環境施設の整備を図る。

さらに各論として農用地利用計画、農業生産基盤整備計画、農業経営の規模拡大及び農用地等の農業上の効率的かつ総合的な利用の促進計画、農業近代化施設整備計画、農村生活環境施設整備計画、活力あるむらづくりに関する計画があります。

里づくり計画を策定するにあたって

里づくり計画の理念

大畑地区は、現在 37.7 ha の区域に 26 戸、127 名が居住し、田園のゆとりのある生活環境と、市街化区域に隣接していることからの利便性を併せて享受しています。

大畑では、里山の緑や史跡、獅子舞など、昔から守り伝えられてきた自然や伝統・文化を大切にしながら、一方で、生活観や土地利用面で新しい考えを持ち込み、くらしを豊かにしてゆく『新たな価値観』を皆で創造してゆきます。

里づくり計画の策定方針

地区では平成 11 年 7 月 7 日に里づくり協議会を設立し、平成 13 年 9 月 8 日から計画策定に向けて、協議会や座談会、地区点検を実施しました。

西区の周辺集落で既に里づくりを始めているため、アンケートの結果でも当地区でも里づくりについて、半数以上の方が興味を持っていることがわかります。里づくりのためには、住民の思いをできるだけ拾い上げて、出来るものから少しでも実現し、すぐには無理でも目標・夢・将来構想として持ちつづけることが大切です。

大畑地区では、暮らしやすく、農業をやりやすい集落にしていくための里づくりにしたいという意向が強いようですが、今後基本的にはこのままがいいという意向もあります。今の環境を維持していくことも、立派な計画方針ですが、今の環境を維持していくためにはそれなりの住民の努力と出費が必要です。また、暮らしやすく、農業をやってゆきやすい集落にしていくための基盤である「集落の絆」を強めていくために、電気、上下水道、ガス等のイ

ンフラ整備と維持管理をきっかけにするのも一つの方法です。

都市住民でもふる里を持たず、新たなふる里を求めている住民が多いようです。

ふる里を持たない都市住民の心のふる里になるという役目を果たし、自分達の集落も活性化出来るようにがんばり、都市との交流や、ニュータウンを中心とする都市住民が欲する農産物と農業体験の機会を供給するのも農村の役割です。大畑地区が都市部の自治会と提携して、安心して食べられる米や野菜の生産を請け負うことを検討し、血縁でない親類関係を形成するのも一つの目標です。

また長期的な展望として、秩序ある土地利用を検討し、大畑里づくり計画として今こそ推し進めるべきです。この里づくりをきっかけに、より秩序ある土地開発につとめ土地の有効利用を進めます。

計画策定の手法

里づくりは、まず自分たちが誇れるものを見つけることから始めたいと思います。誇りとする風景、行事、伝統芸能は何かを見つけ、育成を計ります。

獅子舞の復興は地域の誇れるものの筆頭であり、今後皆で大切にして受け継いでゆき、獅子舞の歴史を調べ、里づくりの目玉とします。

地域を活性化していくためには他地区との交流も大切です。大畑であればニュータウンとの交流が第一です。

農村と都会の関係を活用し、農村はともすれば市街化区域に近いと、何かにつけて市街化区域に飲み込まれてしまうところもありますが、大畑には都会には欠けているものをたくさんもっているのだから、がんばって農村であるメリットを活かしていく

ようにします。

集落の事情は千差万別で、里づくり計画は千の集落には千通りの計画があるということで、大畑らしい里づくりをめざします。

その一つが都会の大消費地がすぐ手の届くところにあるということです。隣接するニュータウンとの交流で、集落に他地区の人が訪れることが活性化につながるということを常に意識し、そのための目玉商品を探し出すことから始めます。例えば、畦道に咲くマンジュシヤゲも都会には無いすばらしい宝物として大切に保存活用します。現在見捨てられたり、活用されていなかったり、眠っているささやかな地域資源をもう一度探し出して、それを最大に活かすことから始めます。

大畑集落の場合は、若者夫婦のほとんどが会社勤めで、なかなか里づくりには参加しにくい状況です。しかし計画作りから、実施にあたってはこれら次世代の意見や力を求めなければ達成できません。幸い当地区の次世代の人も元気です。

里づくりは会議・座談会と並行して、地区点検も実施する方向でまとめましたが、これからも住民の意向をうまくくみ上げるシステムを里づくりで検討します。

今回アドバイスをいただく神戸大学の津川 兵衛教授は、月に 2 回ほど多可郡加美町に棚田の研究ために行っており、地域の行事にも継続的に参加されておられます。

加美町は中山間地で大畑集落とは条件がかなり違いますが、これらの他地区の事例も参考にしながら計画作りを進めました。

イメージ

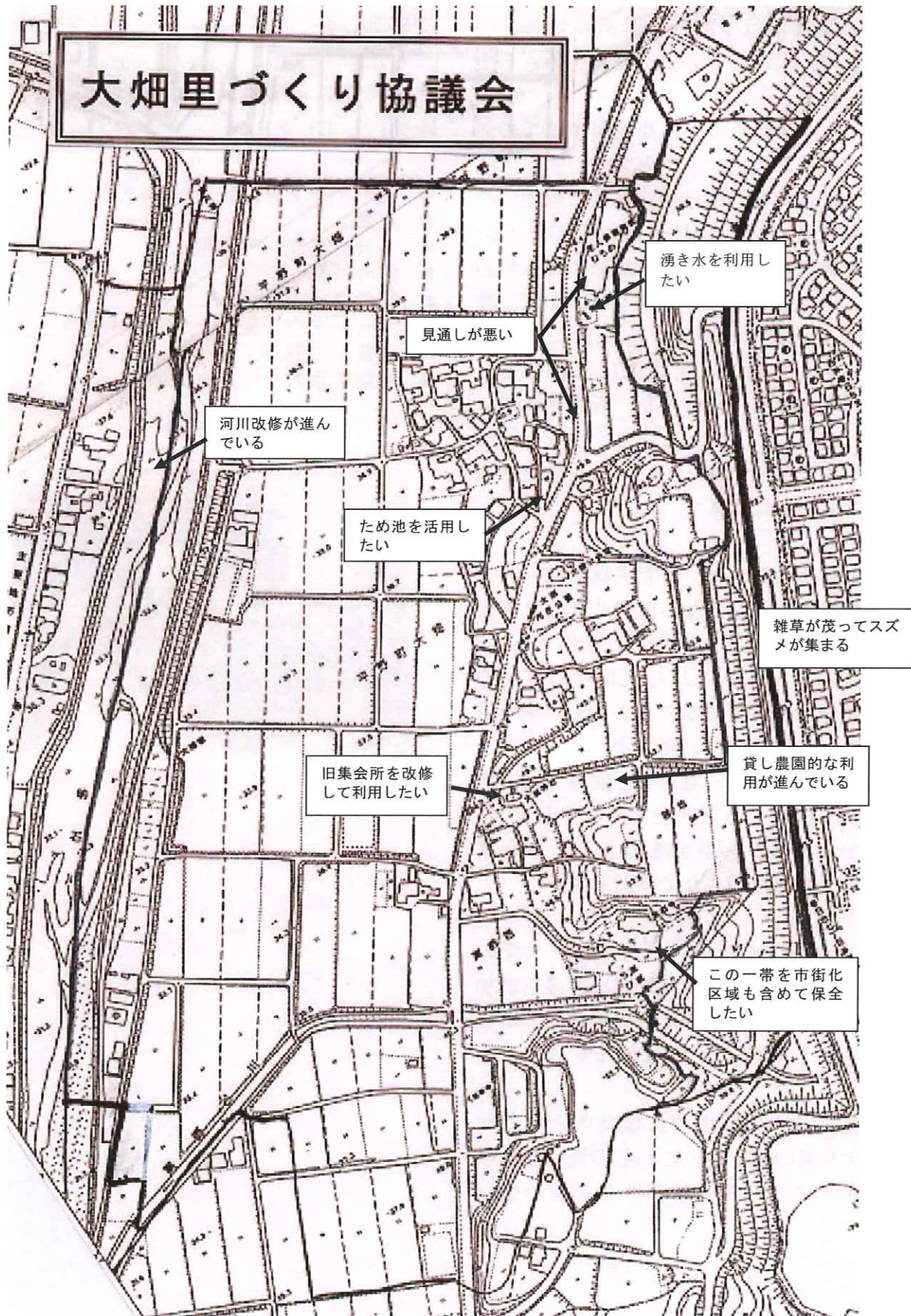
アンケートで大畑をイメージする言葉を募集しましたが、以下の言葉が寄せられました。

これらの言葉のニュアンスから理念等を検討しました。

- 大畑イイトコ、一度はおいで
- 安全
- ニュータウンの台所
- 住めば都
- 昔のままの風景
- ニュータウン住民との共存共栄
- 緑豊か. 静か. 清潔
- 専業農家のない農村区域



点検マップ



課題と計画

営農

営農形態

大畑は1戸当たりの経営耕地面積が122aと非常に大きい集落ですが、現在は専業農家が少ない状況にあります。

このような状況の中で、今後農業を維持しながら大畑で暮らしていくため、生活の質と価値観をもう一度考え直して見る必要があると思います。これからは営農の真の意味を極めていく時代に入りつつあります。

財産でもある農地を管理するという面からも、全住民に少しは農業に関心を持ってもらえる方向を検討します。

- 基本は個々の農家で財産でもある農地を管理保全するという面からも営農をしてゆくが、将来的には、全農家で支えあう集落営農も視野に入れておく。
- 兼業で地区外で働くことは、他の地区と比較出来て、自分達の地区の良さや悪さも分かるので、大畑の里づくりに色々な考え方が持ち込め良い面も多い。
- ただし、地区外での雇用が少なくなった時や、定年帰農のために農業にも少しは関心を寄せておく。また、農業で特産品の生産、直売等の仕事を創出する必要もある。
- 同じ世代の人と働きたいという希望があるなら、想いを同じくする人たちでグループを組んで農業生産活動をする 것도可能です。
- 現在の生活において時間的な余裕や、時間の活用方法がどのようになっているかを再点検しながら、将来の時間の使い方も見通しておく。そして余裕ができれば日頃から農業にも目を向けておく。

水稻

旧明石藩の米は、江戸では明石の天主米としての評判をとっていたそうで、品種を

吟味し、特産米をつくることで米作振興につながります。農業を楽しんでやるという意味からは、そういう試みも大切です。また近年、米の品質低下の原因が夜温の上昇と言われていますが、原因を究明し対策をたてて良い米作りを進めます。

- 地元の美味しい米の味を自覚し、地域の米の消費拡大を進める。
- 農業の最新技術のデータとテクニックを積極的に集めて、有効に活用する。現在直播栽培の方法も進歩しているので、省力化の新しい技術として目を向けておく。
- 大畑地区にあった米の品種を絞り込み、安定生産を進める。鳥害の防除や機械の利用のために品種をある程度統一することが有利である。また、山田錦という有名な酒米はあるが、寿司米はないので、この分野で特産米は作れないか。兵庫県農試が育種した良い新品種があれば使って「平野・大畑米」として作ってはどうか。なお、もち米は集落で必要とするもち米をまとめてだれかが作っても良い。ただ適地適作もあり、もち米だけにこだわることもない。
- 田植の日程が前進し、温暖化の影響を受けやすい状況にあるので、品質低下の原因を究明しながら、適正な田植開始の日を決めて、水稻が適期に生育収穫できるようにする。
- スズメ対策として、爆音機はあまり効果が無いため、省力的で周辺に影響の無い鳥害対策に取り組み、周辺に影響の少ないテープによる忌避等を推進する。防鳥テープを共同で張るということについても可能性を探る。爆音機を使用する場合は、爆音機の有効音量、持続時間、発音時間等の情報を収集する。また、影響を受けるニュータウンの住民も含めて話し合い、お互いの状況を理解し合い、ここからも交流の輪を広げる工夫をする。
- カメムシの害が最近広がっており、習性を良く知り、対策を立てる。
- 地域の米を大事にするのであれば、将来的には集落でのミニカントリーエレベーターの整備もありうる。また、農協のカントリーエレベーターでの地域ご

との処理も要望する。

- 将来は適地適作と省力化を考慮して、稲作田と転作田をブロックローテーションで検討する。

野菜

農業を活性化するためには、平野の適作として特に鮮度の必要な軟弱野菜が向いています。平野で今後推進してゆける作物の基本は軟弱野菜で、専業でやってゆく場合は、周年栽培、契約栽培的な生産を目指し、消費地に接しているというメリットを最大限に生かしてゆく必要があります。

- 同じ作るなら人に負けない品質のものを作る技術を養い、工夫をする。健康に良い野菜ということが野菜の付加価値になる。有機野菜を志向しながら、逆に硝酸態窒素の過剰含有にも気をつけておく。
- 特産品づくりは産地として先行することが大切で、遅れをとると不利になる。新しいものに常に関心を持つことは大切です。専門的にやっていくためにはグループを組んで補助事業を導入することも検討できる。
- 今後は個性を持った野菜で良いものを作っていく必要があります。優良株の自家選別もその方法です。そのため先人の技術と工夫を再点検する。農産物商品に生産者の名を入れることも考えておく。
- 今回、ミニ野菜、ミニ果実、ベビーリーフ、マイクロベビーリーフ栽培の提案があるが、これは小型の野菜でサラダ用に主な需要があります。契約栽培になり、



希望者をつのりアドバイザーの紹介で講習会を実施し輪を広げていく。ビニー

ルハウスで有効に活用する場所と余力があれば進めていく。そして農業の活性化につながらないか検討する。

花

カーネーションの産地として、いままで習得してきた技術を新たな花卉栽培や、他の作物の生産にも活かしていく必要があります。

- カーネーションの品種や作型を研究して栽培管理や収穫での省力化を図る。
- 現在関西空港から北海道にも輸送しているが、神戸沖空港からの輸送で出荷コストの低減が期待できる。

酪農

酪農は現今の、社会情勢下では厳しい面もあるが、地域の特産物や優良な農産物を作るための土作りの要素として、酪農の健全な育成を進めます。教育の一環として牛とふれあうことのできる機会を設けられていることから、多面的・社会的な貢献も評価することが必要です。

- 畜産公害対策には細心の注意をはらう。

果樹

都市農業の特徴をいかして、新たな果樹栽培方式を取り入れてゆくことも必要です。

- 都市農業ではイチジクは今後有望な作物で、省力化しながら高品質を目指す。またイチジクの加工まで考えて栽培する。新たな果樹の導入とオーナー制度も検討する。

その他特産農産物

単に農産物を生産するだけでは、遠隔地からの農産物や輸入農産物に負けてしまいます。農業は、単に品質の良い農産物を生産するという時代ではなくなっています。

- 農業は単なる一次産業ではなく、生産・加工・販売までを含む1次から3次までの産業になりつつあります。これか

らの農業では、弊害をもたらすような市場原理の打破のために、血縁ではない親類関係を築いていく。

- 農業は工夫と発想の転換が必要な産業です。色々な地域の情報の収集・分析・交換をしながら付加価値を求めて加工、販売のところまで結びつけ、農地で出来る農産物は、工夫を重ね発想を転換して、全てを活用する。
- 農産物に対する今までの概念を変える必要があります。今後、屋上緑化が進む可能性があるため、新たな緑化植物の生産も農産物として検討する。
- 昔にワタを栽培していた経緯があるが、工芸品や切花用としてのワタの用途は検討の余地がある。農業には遊び心も必要である。
- 川沿いの砂地に適した作物の選定も進める。サツマイモ、ダイコンは良くできる。

貸し農園

ニュータウンに大畑地区住民の知人、友人も住んでいますが、受け入れ施設があれば、貸し農園は利用したいようです。今後、場所と機会を提供してあげれば、交流は出来るように思います。

- 里づくりで既存の貸し農園のマナーを正していく。農業体験を通じてマナーを習得することも大切である。
- あらたに貸し農園を整備する場合は、里づくり協議会が中心となってまとめ、農家自身が農村の持つ多面的機能を熟知し、借り手にもよく理解してもらう。今後は市民農園法の活用により休耕地を活用して対応する。整備する場合はトイレ、駐車場の整備は必須とし、また景観維持のために農園の周囲に植樹や生垣を検討する。
- 現在3戸が所有している砂池の農地は場所的にはニュータウンには近いが集落からは不便な場所であり、特に転作対応している農地は貸し農園的な利用も可能です。ニュータウンの住民を受け入れる機会と施設を整備して、ニュータウンと自治会組織等との連携を取れば運営もうまくいくと考えられる。ただし、農業遊びをするだけでなく、農業のもつ多面的機能を周知させる。

- 貸し農園で農地を正式に賃貸するとなると、相続税の納税猶予が受けられなくなるので、相続税の高い区域では入園方式で対応する。
- 農地を貸すのではなく、農産物の所有者制(オーナー制)や、入園方式を検討する。

直売

農産物は、何を作るにしても1次産業としての生産だけでは利益が低く、2次、3次産業として加工直売すれば、付加価値が高まります。日頃の時間の一部を割いて野菜を植えて売って見たら、団地の消費者等も喜び、またお金になれば作る励みになります。

櫛谷の松本でも集落で直売所を開設して、うまく運営しています。大畑はニュータウンとの関係も良く、直売所を開設すれば、双方にメリットがあります。

- 直売所を整備する場合は、大畑も地の利を生かして団地に広報し、誘客する。農協の直売所にも広く参加できるように農協に要望する。
- 全国的には成功例もあり、今後は婦人会、老人会が中核的な役割を担っていく。
- 朝市にだすものは野菜、米、果物、花、木や竹を少し細工して作ったガーデニング用具(ポット)等面白い品目を考える。
- 野菜でも、赤、黄、緑等、色の鮮やかなもの、形の変ったもの、極小のもの、極大のもの等変ったものも作る。
- 櫛谷町松本地区の様な良い先進地があれば見学をし、良いところは積極的に見習っていく。
- 今後は競合により直売所の経営も厳しくなることが予想されるので、近隣の地区と合同で運営も検討する。農家とニュータウン、団地を結びつけるのには、市産業振興局等行政の応援が必要である。

転作

日本で米の消費が急激に伸びない限り、米の減反が続くと考え、地域で合理的な対

応を考えるべきです。ただし、将来世界的には食糧は不足すると予想されますので、それまで農地は守ってゆきたいし、減反農地を地域活性化に活かすことができれば、地区としても良い傾向が得られます。

- 減反政策が続いても農地は守って欲しいし、減反農地の有効利用が出来れば地域としても良い方向に向います。連作障害を避けるための転作をしている事例が多く、地域で転作田のローテーションを組むことはできないか、というのも課題である。今後農業を維持していくためには、集団化とブロックローテーションが第一である。
- 米の減反は当分の間は続くと思われる。集落でやりやすい転作方法も考え、本格的に転換作物を検討する。貸し農園、米作以外のオーナー制の導入を考える。
- 省力化が可能で、地域に有効な転作を検討する。転作田を集団でブロック循環していくことが省力化につながる。地域や個々の農家の負担にならないような集団的な転作の手法が無いのか検討し、転作で地域の農業が活性化する手法を開発することを考える。
- 景観作物を推進したいが、とも補償の金額が低いため進めにくい面があり、補償金の是正を要望する。景観作物は収穫物を利用できる景観作物が良いのではないか。
- 例えば、ソバは、手軽にコンバインで収穫が出来る。また、赤花のソバは美しいので景観作物として栽培する。ソバ打ちで売り出している地区へ売る。白花のソバを作っている所は赤花ソバを植えると混ざってしまうので、赤花のソバを植えたがらないことから、大畑で赤花ソバを専門に栽培する。
- 時間に余裕があり、農業を楽しんでやれる人があれば、ソバの栽培も面白いもので、ソバ打ち道場を建てて集客することも考える。経済性と結びつける努力も必要になる。ソバ、コスモス畑をつくり、見物客を集めて、金を落としてもらい、それを上手に受け止める方法考える。
- 金が入らなくても、減反田を活用して人をびっくりさせてやろうとする意気込みを持つことが活性化につながる。

- 川沿いの農地では、適作物としてサツマイモ、ダイコンを栽培し、省力的な換金方法も検討する。

農産物出荷販売

農産物は、季節を問わず一年中各国から輸入され出荷されるので、大畑でも地域の特性とメリットを活かし、生産にも販売にも工夫を凝らさないと儲けにつながりません。

- 契約栽培も含む多様な販売方法、販売ルートを考える。
- 休耕田に枝豆を一斉に作り、「枝豆狩り」「サツマイモ狩り」「ダイコン狩り」を企画し、イベントとして実施するという案もある。

農業の活性化

米作りだけでは農業が成り立たないので、農地を有効利用して野菜等をたくさん作って直売所で売る。休耕田で大豆を作って本格的に豆腐作りに取り組む。味噌、ジャム(イチジク、イチゴ)等作って販売する。昔のように各世代が知恵を出し合い各世代の持ち味を生かし、協力して色んなことに取り組むことが農業の活性化には必要です。

出来るものから仲間を募って活動し、必要な助成があれば行政等に支援を相談することも必要です。何でも無いものが、工夫することによって地域の誇りに変身することがあります。そして、それを起点にしてお金を落としてもらおう場所と機会をつくっていくことができるかもしれません。

- 交流で活性化することも検討する。オーナー制度の採用は可能か。この制度は農業・農村の理解に役に立つ。
- 大畑地区で道の駅的な施設の誘致ができるか検討する。大畑でも地域の活性化につながり、該当する国等からの補助事業を検討する。
- 味噌、甘酒の麴は昔からの地域の特産物であるので、かまどがなくても現有の



地区で昔から生産されている味噌麹

調理器具で簡単に出来る味噌や甘酒作りをPRし、消費拡大を図る。その一環として小学校の実習として積極的に導入し、地域の農産加工特産物にまで発展させる。

- 新たな需要を掘り起こす。発想の転換で特産物を地域の活性化に結びつける。初めは儲けを度外視して、実行することにより農業にも活気がでてくる。
- 農業体験には教育効果がある。農地の環境保全に果たす役割や農業事情を子どもに教育するのも大切である。その一環として味噌の講習が平野小学校で予定されている。今後は作業場の見学や実習、ガーデニング道場の開設も有効である。
- 会員制ガーデニング道場の開設、部門別資格制度、農産物販売還元について地域の高齢者が中心になって指導に当たる。農業を通して教育することも必要であり、農業体験を通して教育効果があげられることを示してゆく。特に幼少のころに躰や農業の大切さを学ばせる。ニュータウンが近くにあるので、近くで通える農業体験実習は魅力的である。
- 色々な行事を個人でやると大変であるが、里づくり協議会で対応を決めて実施することが秘訣である。儲からなくても、一度はやってみるということも必要である。
- 郷土の銘産、誇りを創り、意欲を育てるといふ面では当初は儲からなくても仕方が無い。しかし、最終的には儲かるようにならないと継続できない。初めは儲けを度外視し、マイナス面も里づくり協議会でカバーして皆で負担を引き受け、長期的には採算を追求していく。
- 畦のマンジュシャゲ、車道の街路樹に花・実のなるものを植え風景づくりをす

る。このように一種の緑地的空間をつくり客を集める。直売所、休憩所、茶店等を設けることと結びつける。

- オーナー制度を導入することの出来る種目と方法を見つける。単に貸し農園をやっているのではなく、オーナーに農村・農業・農地の持つ公益的機能を理解してもらうことが必要で、あわせて運営について協力してもらう。
- オーナー制度とあわせて有料の農業体験場、自然体験場の設置も良い。良質の地下水が出ているのを何かに活用したい。
- アヒル、アイガモ等の小動物の飼育と活用も農業の活性化につながらないか検討する。

農業の機械化

生産コスト減により農業の生産性を向上するためには、機械類の有効利用は避けて通れません。機械の共同利用に向けて何か良い知恵はないのか、西農政事務所、農協等の関係機関との連携の下に新しい方法の検討をすすめることにしています。農家の家計にとってあまり負担にならないようであれば、農業機械への投資は農地保全のための必要経費、生活にゆとりをもつための必要経費として納得できる面もあります。

- 農業の機械代を込めた営農コストを検討する。また機械化についても場当たり的でなく、計画性を持たせる。そして性能の良い機械の実力を発揮させる計画を作る。他産業にひけをとらないようにするためには、努力はしすぎることはない。
- 機械化で生じた時間的余裕がどのように活用されているか考える。また機械の過剰投資についてはもう一度チェックしなおす。
- 農家の家計にとって負担にならないようであれば、農地保全のための経費と考え、生活のゆとりをもつために各戸が機械に投資するのも納得できる。納得できないなら共同化の難しさを直視しながらも、将来に向けて共同利用、集落営農も検討する姿勢は保持する。調製機械が

各農家にあるために、カントリーエレベーターを利用する農家は少ないが、各戸所有の調製機械が使えなくなればどうするか検討しておく。ただし農協のカントリーエレベーターにも限界があるので、早い段階で将来の方針を策定する。

農業の多面的機能

農業には、農産物を生産する直接的な機能の他に、環境保全、保健、休養、景観形成等多くの機能があり、これからは、このような多面的な機能が益々重視されます。そのため、このような公益的機能を活用した農業・農村の活性化を考える時代であります。農業の大切さ、農業の役割を外に向けて啓発し、都市住民に積極的に働きかけをやってゆきたい。

- 農業・農村のもつ多面的機能については、農家も自覚していない部分がある。まずは農家から勉強して認識を深める。農業は、場合によっては生産機能よりも他の機能の方が大きい場合がある。都市住民に農村のもつ生産機能と公益的機能(多目的機能)を理解してもらう努力をして、農村・農業の公益的機能を十分に知らしめることが大事である。
- 大畑は経営耕作面積も大きく、住民はここに住んでいる限りは何らかの形で農業に関わっているはずだ。里づくりにおいては今後も工夫して農地を守っていくことを周知徹底させる。
- 個人で管理できない農地は、その理由を確認し、管理方法を集落で検討する。集落営農、環境管理では共同化が有効である。
- 雑草対策は、集落環境維持の重要な課題であるが、温暖・多湿の日本では大変な作業であり、省力化を進めることが今後の農業の維持に大きな推進力となる。地区内には大きな法面もあり草刈りも大変で、将来的には刈り取った草を何か活用出来る方法がないかも含めて皆で検討し、知恵を出し合う。
- 雑草対策も機械が発達しているので、トラクターにアタッチメントを装着して効率的に出来れば楽になる。夏の草刈りは農業や集落環境にとって非常に厄

介なものである。夏場の雑草刈りは辛い仕事であり、トラクターのアタッチメントで対応できるような機械があるなら研究して欲しい。ただし、トラクターのアタッチメントの場合は、夏場の水稲栽培ほ場の畦の草刈りは無理なようである。

- 家畜の放牧を活用した除草も検討する。

農業後継者

農家の後継者問題については余り不安は感じていない。農業機械が良くなっているので、車の運転が出来ればその気になれば稲作機械は操作出来る。また、定年で帰農する人が増えて、今後10~15年程度はなんとか大畑の農業は維持できるのではないかと楽観的な考えもあります。

また、非農家の人の中にも農業を手伝っても良いという人があります。

- 大畑の農業の後継者問題については、今後10~15年は心配無い見込みである。農地維持の面では心配はないが、活力ある農村づくりのために後継者育成に努力する必要がある。
- 大畑地区は定年帰農に期待する部分が大きく、むしろ定年帰農で農業が活性化することもありうる。生きがいとしての農業経営もあることを認識しておく。
- 地域事情を勘案した農業後継者の確保と、集落を基盤とした共同営農で農業を分担することも検討する。
- 非農家でも地域の農業にかかわっていきける方法を検討する。農家と非農家がいかに共存するかということが近郊農村の課題で、非農家の農業への参加は良い効果を生むであろう。

ほ場整備事業

- ほ場整備事業区域で問題のある場所は早急に補修を進める。今後の管理のためにも、ほ場整備事業関係の資料は集落で一括管理しておく。
- 農業水路で法面の大きい場所は、管理が大変であり、管理が軽減でき景観形成にもプラスになる法面活用法がないか検討する。

生活環境整備

農村にはまだまだ旧弊が残っていますが、解決を避けていては永遠に解決しません。色々な問題を一度整理する必要があります。ただ都会のように「隣は何をする人ぞ」でも困るし、中庸を保つのは難しいが、中庸こそが大切です。

また、集落が繁栄して行くためには、農業とともに各農家の経済がこれからいかに安定していくかにもよります。各世帯の安定が集落の安定につながる。ただし、困っている世帯があれば、集落で協力し合い、助け合うことが必要です。

ニュータウンのような巨大開発は、付近の環境と住民の生活様式の変化に大いに影響している。今後も良い面を享受し悪影響を排除して、便利になったことがプラスに働いたか、マイナスに働いたかを検証してみる必要があります。

治安、交通、衛生面等で必要なものの整備は今後も計画にあげて要望し、積極的に進め、里づくり活動の中で早く実施すべきです。

組織の維持と活性化

大畑は昔から家の出入りが少なく、絆の強い集落ですが、今後も自治会を基幹として、農会、婦人会、老人会、消防団、子供会等が協力して集落維持を計ってゆきます。

- 自治会が今後も集落の基幹組織となる。
- 集落機能を維持するために、経費の負担と出役には協力し、集落・自治会の親睦活動は大切にする。
- 春日神社の祭りは、関係集落と協力しながら郷土のシンボルとして活動を継続し、祭りを核に地域間の連携を図る。
- 農会は自治会と力を合わせて里づくりの中核組織となる。
- 今後の高齢化社会に備えて、老人会の組織や活動も充実していく。今後も体力

に合わせた活動や有意義で楽しい活動を探していく。ゲートボールの他にも集落が皆で集える簡単な遊び(ゲーム)を見つける。

- 消防団の若者を地域の次代の担い手として位置付け、地域活動になじんでもらう。また、次の消防団員の育成にも心掛け、世代間のリレーをスムーズに行う。
- 消火施設の整備の状況を皆が認識し、皆が消火活動に協力できる態勢を整備する。また、防災意識も併せて高めていく。
- 女性の活動は集落の活性化に欠かせない。今後も継続的で地道な活動が地域を活性化させる。里づくりでは女性の意見を尊重し、女性の活動に期待する。
- 女性主体の旅行を地域間交流に役立たせることはできないか。山や海との交流、女性活動の活発な先進地の視察も重要で、今後の地域の活性化につながる。
- 将来の集落の後継者として、子供会活動を通じて集落で子供達を育てていく。

交通施設整備

人間にとっては歩くことが健康につながっています。車社会、道路整備が進んだことにより極端に歩く機会が少なくなって足腰が弱っている。他にも失われた機能が何かあるのかを考え、回復できるものは回復につとめるようにします。

当面は、交通安全を第一に考え、交通安全対策の確立に努力します。

- 大畑からニュータウンへ通ずる坂道には危険箇所が多い、危険回避の方法を教え、順を追って解決を図る。自治会では常本橋からのニュータウンへの上がり口は、見通しが悪いので、拡張して欲しいと継続して要望する。
- 通学道路では、子どもの通学時間帯は通行禁止にしても良いという意見がある。自転車通学生のために通学時間帯の交通規制ができないか検討し、安全な農道を通学路と定めることを検討する。また地域で工夫した安全対策も施す。
- 交通騒音が拡大しているのもので、各地でタイヤ騒音低下の舗装が進められている。集落の近くは低騒音の舗装でなければ低騒音のものに代えるよう働きかけ

る。暴走族については、取り締まりを要望するだけでなく、暴走族を出さない広域的な地域づくりが必要である。

- カーブミラーの整備と、カーブ箇所フェンスに「危険、スピード落とせ」の標識を付けたいという意向があるので方法を検討する。
- 自家用車に変わる方法を見つけるように検討する。超高齢化社会の到来に向けて、10人乗り程度のマイクロバスの運行は、お年よりの外出に好都合で老人の社会参加につながる。
- 市道管理のしくみを調べ、未移管市道の最善の維持活用方法を検討する。

利便性向上

車社会は便利な反面、事故や環境悪化をもたらす恐れがあります。車に乗れない高齢者や子供にとってはかえって不便な世の中になる恐れがあるため対策が必要です。また、地域の開発には常に良い面と悪い面の2面があります。たとえば、コンビニは深夜まで人が行き交い、騒がしいようです。近所には無い方が良いのかもしれない。

- 西神中央へ出るバスの便を整えて欲しい。せっかく市バスが通っていたのに廃止されてしまい、西神へ行くバスは遠く高和回りで20分以上かかってしまう。結局雨の日などは自家用車を利用するしかなく、駅前渋滞の原因の一つとなっている。農村が置き去りにされていくのではなく、共存できる姿を示して欲しい。
- 西神中央方面への交通の便を良くしていく方法を検討し、皆で提案する。例えばラッシュアワー以外はマイクロバスの運行をバス会社に提案する。また、市バスと神姫バスが競合しない方法を考え、交替で運行する方法を提案する。バス運行本数に差をつけすぎるとは地域の差別化につながり、車に乗れない高齢者の差別化につながる。ただし、住民の公共交通機関を利用するためには覚悟も必要である。
- カーシェアリングの研究もする。また、高齢者グループでタクシーに乗り合

せて買物に行くということも提案する。

- ニュータウンに買物の場所が整備されたことが大畑へ及ぼす影響を、長期的に検証してみる必要がある。現時点では地域開発は住民生活に良い影響を及ぼしているという意見が多い。
- 地区内でのコンビニや自動販売機が本当に地域にとって必要なものかをこの際真剣に考える。小学生がコンビニに買い物に行き無駄遣いをしたり、深夜まで騒音を出すことは、都市化がもたらす最大の悪い面である。若者の集まる施設は警察の近くに置くなどの配慮が必要である。

公園運動施設整備

グラウンドの整備の希望もあります。皆で決めれば面的整備は出来ると思います。共同でやらないと進まないと思います。

- グラウンドを整備して、レジャー施設や公園の整備をした場合に補助があるか。また、これらの施設の整備を足がかりに地域基盤を安定させることもできるかを検討する。
- レジャー施設、テニスコート等の運動広場を整備する場合は、田畑、山林、河川と関連させ、農業体験とか自然学習の要素を高め、導入可能な補助事業も模索する。整備したい内容を今後の話し合いの中でもっと具体的に煮詰めてゆき、具体化した時点でそれを整備できる補助事業があるか探す。ただし過剰投資は避ける。
- テニスコート等、他地区の事例をヒントにして検討できるが、法令等の許可との関係もある。
- CCPの整備内容、利用方法について希望があれば提出しておく。
- 子どもが喜ぶ遊び場を整備する。

文化施設整備

市街化区域に比べて、文化施設の不足も指摘されているし、農村のインフラ整備もやや遅れている面があります。ただし、今後わざわざお金をかけて都市ガスに変えてゆくことが必要かどうか議論の余地はあります。

- 文化施設を地域で維持するのは難しい

が、近くで利用できる場所を調べて住民に周知させる。また1地区だけでなく隣接する他地区と共同で文化事業の開催を企画するようにする。

保健福祉施設

地域では近くに福祉施設ができることは、高齢化社会に向かって心丈夫なことと歓迎しています。地域では健全な福祉施設の整備には信頼関係を培いながら協力関係を築いてゆきます。

- 保健福祉施設を地域の振興に活かしてゆく。また、地域の農地を高齢者のリハビリ活動に提供していくことも考える。
- 集落からの雇用もあり、集落の雇用拡大にもつながっている面もある。

治安維持

社会情勢の変化で農村地域でも犯罪が増えつつあります。地域の協力で治安を維持して、安全な地域にしてゆく必要があります。

- 通学道の草が生い茂っているところは他地区とともに管理整備を検討する。林の陰になるようなところは防犯体制を徹底して安全性を高め、住民の防犯ネットワークを強化する。安全も里づくり運動の合言葉に加える。
- 特に通学路の草刈りについては農会、老人会に高校生を中心とする学生や児童が加わって、自分達の道は自分達で管理整備するという気持ちを持たせる。
- 周辺で声を掛け合って防犯に気をつける。防犯灯の整備に努力し、防犯体制を強化する。
- 生活安全施設の整備と点検は定期的実施する。

防災

神戸市の消防署も近く、地区に消防団もあり、安心している。それぞれ日頃から防災・防火施設をよく認識しながら、防災、防火意識を高めます。

- 防火用水施設として、水槽 3 箇所、消火栓 5 箇所が農免道路と中筋に整備されているが、皆で場所と使用方法を確認

しておく。

- 集落のため池は、防火用水としての機能を残しながら、ビオトープ的な利用で、皆が集える場所に整備できないか検討する。

衛生

アンケートには薬師谷川の掃除が必要という意見がありました。地域の中で景観を維持してゆきたい場所であるため、対策を必要とします。

- 場所を決めて定期的な清掃を実施する。
- 草や木が生えて、水溜りがあればどこでも蚊は発生する。集落居住区域だけでも蚊の発生要因を見つけ出し防除対策をとる。

ゴミの処理

ゴミの不法投棄は地域で最大の不快極まりない問題です。家庭ゴミ収集のための新たな場所の確保が必要かと思えます。

- 便利になればデメリットも多くなり、ゴミも今以上に増える覚悟をしなければならぬ。定期的に空き缶等を拾う運動をすることも考える。
- 不法投棄の防止体制を強化し、投棄しやすいような場所をなくしてゆく。また、周辺の集落とも連携をとりながら、対策を検討する。
- 新たなゴミの収集場所を検討する。また、カラスよけのネットを工夫して設置する。

雑草対策

歩道等にはみ出して生えている雑草のため、カーブ箇所では見通しが悪いところがあります。最低限道路の方へ伸びている雑草は処理する必要があります。

- 草刈りをすべて行政に頼るのか、地域の奉仕に期待するのかを、地域のモデル課題として検討する。ただし、今後の日本ではボランティア精神を育てていく方向を採る必要がある。
- 特に通学路の草刈りについては自治会、農会、老人会に高校生を中心とする学生や児童も加わって、自分達の道を自分達で管理整備するという気持ちで、ボラン

ティア精神を育てていく。環境保全のためにどのようにするのが良いのか検討する。

- 現在ボランティアで進められている地域の草刈りを始めとする管理について、今の状態を維持しながらも、行政への要請と地域での管理体制を検討し、本来のあるべき姿を確立することにより、今後の里づくりの目標の1つとする。
- 区画の境界の杭等，除草作業に障害となるものを点検して改善することが今後の省力化，ケガと機械破損防止のためにも必要である。
- 通学路の安全を確保する。子供の安全確保は健全な社会づくりに欠かせない。子どもの教育，しつけ，生活慣習についても里づくりの中で再検討する。
- 自転車安全に走れるように，配慮する。

伝統文化の継承

里づくりで大畑集落の色々な伝統行事を調べました。

大畑には獅子舞のような地域として誇れる伝統文化があり，これら伝統文化行事を理解して後世に伝え残しておく価値があります。

獅子舞も1度は埋もれかけた伝統文化です。他にも，価値が無いと思っている事でも新たな価値が見出せるかもしれません。埋もれかけている文化や伝統行事を1度掘り起こしてみる必要があります。

- 獅子舞は，伝統芸能として大いに価値があり，里づくりの目玉となる。あらゆる機会を活用して集落のPRとして活動に参加し，住民の誇りと豊かさに繋げてゆく。大畑地区の知名度を高めるために，地区外の活動は積極的に進め，オリエントホテルへの出演等も積極的に検討することは価値がある。
- 獅子舞の練習の場は，後世に残す伝統文化を子孫に伝える場だけではなく，集落の世代間交流の貴重な場でもあり，子どもにとっても教育の場となっている。今後いろいろな場面で，こういう交流を作り出していく。

- 大畑は獅子舞のさきまいを子どもがやっているが，技術は少し未熟でも本当にかわいらしくて良い。これからも子どもに頑張ってもらい，獅子舞で女の子のさきまい(獅子の前で玉を持って獅子をあやつる)も良いと思うので今後検討する。特に大畑の獅子は雌だということなので，女子の参加を検討し，この際，衣装をもっと派手にしても良い。
- 若い人(大学生)がリードして，ぜひテンポの違う新作を考案して欲しい。また和太鼓との競演を今後の秋祭りで試みても良い。
- 獅子舞の活動は昔から自治会で世話しているが，活動が活発になりつつあるので保存会を設立して，自治会とは活動を分けていくことも検討する。獅子舞活動も軌道に乗りだしたことから，獅子舞保存会の設立も念頭に置き，集落の運営を分担する。
- 獅子舞の他にも地域活性化に役立つ伝統芸能を探し出す，また，獅子舞の新たな形態も検討する。



獅子舞の練習は世代を越えた交流の場

集落付合い

集落，コミュニティーを維持するために，区域内の人間関係を大切にしておく必要があります。集落のしきたりや人と人との付合いで，良い面は伸ばしてゆき，悪い面は変えていくことが必要です。

- 里づくりで人付き合いのルールを整理しても良い。
- 池と周辺を住民の憩いの場となるような整備を検討する。

生活活性化

大畑には地下水が湧き出ている所や未利用の旧集会所等があり、これらを地域の活性化に少しでも活かせるように皆で知恵を出し合う必要があります。

- ガスステーションの際からきれいな地下水が湧いている。この水は良質であり、是非何かに利用したい。病院もこの水を有効に利用すればよい。
- 地下水の有効利用のために、どこかに水汲み場を整備して、交流の場所、直売所等と併設できないか検討する。
- ニュータウンとの交流も地区の課題である。地域にとって有利になるようであれば、地域としての交流を開始しても良い。ニュータウンとの新しい付き合い方を見つける。そのため、ニュータウンとの交流について他地区の事例も検討する。
- 未利用の集会所は何かの有効利用したい。憩いの家、農産物加工工房等も1つの案である。



明石川の河川改修

洪水対策

河川改修が進んでおり、洪水の危険は排除されていると思われるが、常に災害に対しては注意を払い、監視する必要があります。

- 全て安全ということは無いので、常に防災意識を持ちつづける。そして色々な災害を想定して、避難場所を確認しておく。

環境整備

ため池



集落の中心にあるため池

数少ない貴重なため池の活用ができる方法がないか検討する。現在は東播用水の整備のおかげで農業用水としてのため池の地位は下がっていますが、地域の環境を整備するうえから活用を検討します。

- 防火用水池という役目も担っていることから、本来の機能を妨害しない範囲でビオトープ(動植物の住み家となる小さな自然)として活用し、住民が楽しめ、周辺に集えるように整備して、自然の保全をはかる。

河川

川の形態も大きく変わって行きつつあります。生態系を回復して、ホタルを呼び戻すのも意味があります。メダカの生息する小川があるだけで、貴重な地域資源の一つになります。



自然工法を取り入れた河川改修

- 河川に自然が戻りつつあり、コイやモズクガニもたくさん生息している。上流地域との連携で、アユが住めるぐらいの環境が回復できないか検討する。また、農業水路も自然の復活の場として活用する。
- 小中学生に明石川の定期観察をしてもらい、環境回復を見守ってもらうなど、自然体験の一環として利用する。

里山整備

西神ニュータウンのある場所も 40～50 年前はマツタケ、シバハリが良く取れて、市場に出していました。蛍もいました。

今は大畑地区との境界ぎりぎりまでニュータウンになったが、一部は貴重な里山として残っています。最近、外周道路に植えられた樹木が、大きくなりつつあるのも救いです。

- 特に薬師寺周辺の里山と、市街化区域の緩衝帯辺りと合せて景観を保全し、そこを大畑地区の聖域に位置付ける。また外周道路に植えられた樹木が大きく育つのを見守っていく。
- 残った里山の整備活用を進める。試験的にマツタケ、シバハリを養成してみるのも夢のある事業である。

土地利用

土地利用方針

アンケート調査では、里づくりで話し合いたいことは土地利用のこと。次に農業と生活環境の問題が続きます。ニュータウンに隣接していることから、新住民を対象とした有効な土地利用も必要です。

- 地域で理想的な土地利用を考え、ゾーニングする。今回は、特に居住環境を高める集落居住区域を設定する。
- 砂池の辺りは貸し農園ブロックとしては最適であるが、他の条件が満たせるか検討する。

土地の流動

現在、地区内の農地を含む土地を手放すときは、一旦は自治会を通じて地元で流動出来ないか検討し、地区内の土地が地区外の人に渡らないようにしています。

- 今後も秩序ある土地利用が維持できるよう、里づくり協議会でもその考え方を確認し、必要があれば文書化して協定とする。

農業保全区域

農地は保全すべきであるとする意見と、積極的に農業以外の利用をすべきであるとする意見が半々です。特に40代の人に開発志向が強いようです。ただし、開発の許されるものは住宅系の開発で、逆に敬遠されるものは資材置場であり、ドライブインも敬遠されています。この意向は共生ゾーン整備の趣旨に合っており、秩序ある土地利用を目指します。

- 秩序ある土地利用を目指す。適正企業を誘致して里づくりをする。里づくりに企業を組み込む。
- なお、当地区は隣接集落からの入作を除いて、他地区の農家が所有する農地はない。農地の保全を進めるうえからも、今後も地区内の農地の所有権が地区外の人に移らないように、農地が不要にな

った場合は里づくり協議会や農会に申し出て、地区内の農家に出来るだけ所有権の移転が出来るようにする。

集落居住区域



農業保全区域に位置付けられる優良農地

生活環境をより高めていくために、既存の住宅連担区域を基本に集落居住区域として設定し、特に住環境をより良くしていくように努めます。

- 分家住宅の希望があるが、内容を精査する必要がある。分家住宅は以前に比べて緩和されている。節度ある転用であれば、地域で話し合って認めていく。



特定用途区域

現在の福祉施設と施設拡大部分を含めて、特定用途A区域として指定するという案もありますが、拡張部分や他の用地利用調整にもう少し時間が必要なために、今計画では保留として、継続して検討してゆきます。

- 地域との関係も良く、施設の拡張には応じて良いという意向であるが、周辺の土地との調整もあり、今後引き続いて施設の拡張については検討する。
- 外観、事業内容が里づくりに沿ったものであり、地域の活性化につながるようであれば、将来積極的に誘致を考えるべきで、農産物加工企業との一体的な里づくり、酒造業、麹製造業等、また田園福祉保養地区を目標としても良い。

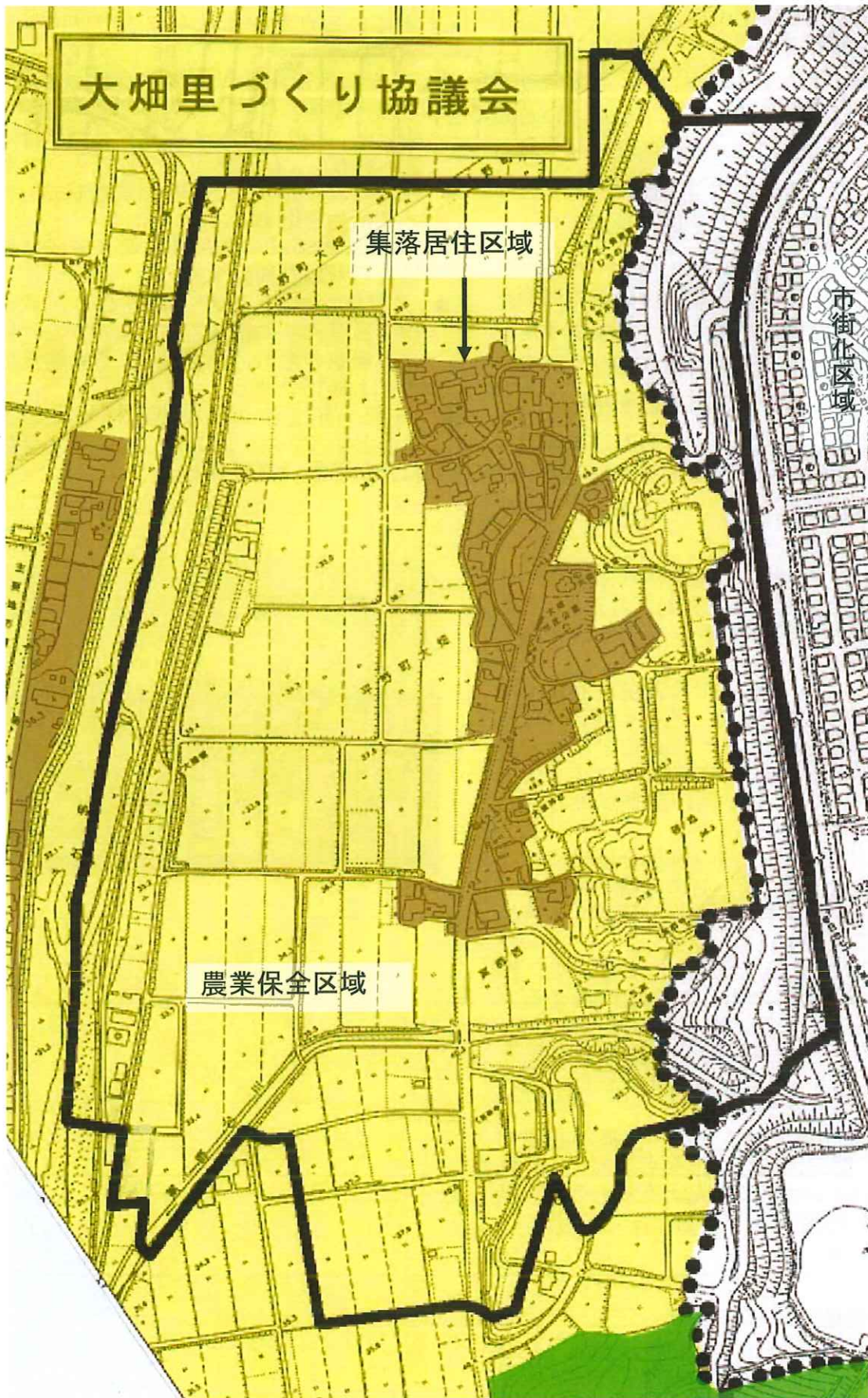
農地転用

土地利用は、お互いに密接に影響しあうことであり、大きな農地転用をする場合は、事前に集落で相談して、双方の立場を理解しあいながら、最善の方法をめざします。

当面は農業利用を進め、将来的には一部の農地について、農業以外の最善の利用方法があれば、集落で合意を得たうえで、新たな土地利用を検討します。

農村用途区域の面積（単位：ha）

区分	農業保全区域	集落居住区域	合計
現状	37.7	0.0	37.7
	100.0%	0.0%	100.0%
計画	33.6	4.1	37.7
	89.1%	10.9%	100.0%



景観形成

遠景

農村において人に誇れる風景を作っていくことは必要です。そこに住んでいる人の誇りとなり、地域の文化的グレードがあがっていくことは、そこに住む人の気持ちを豊かにします。また、農村景観を日本の原風景としてとらえ、まず美しい景観を作り、この点から農村・農業の公益的機能を都市住民に知らしめることが必要です。

名所旧跡でなくても、ありきたりの農村風景であっても、そこに価値を見出すことが出来ます。今残っているもので価値のあるものであれば、後世に残して伝えて行けたらと思います。

- 風景作りは集落の品格作りにつながる。この機会に根気よく真剣に考える。また風景作りの経済効果を考えることも大切である。
- 開発とはある意味では環境破壊につながる。風景を守ることも大切だが、これからは積極的に新たな風景を作るという意識で取組んだ方がよい。このままでは大畑地区本来の良い風景が失われてしまう恐れがある。
- 明石川沿いの一部の風景を復元できないか。全域でなく、特に景観の素晴らしい場所を選択する。堰堤に植林して修景を図ることも良い。
- 里づくりで石の地蔵、仁王像、寺、神社その他を拾い出して後世に伝えるように計る。また、樹木や草花を植えて、百年かけて大畑固有の景観作りを試みるのも良い。そこを大畑地区住民の心の拠り所とする。
- 新たに作っていくという気概が必要である。歴史には必ず出発点があり、折角新しいミレニアムを迎えたことから、現時点を出発点とするものを考え出すべきである。

近景

- 集落に溝があつて小魚をとった。その後自然環境の破壊があつた。今はその自

然が少なくなっているが、今から新たに創造するのは難しいため、今わずかに残っている自然や風景を守るだけでも価値がある。

- 河岸の景観作り、自然体験場、アメニティー空間、ビオトープ作りに竹藪等を復元し、ありきたりの風景を有効に活かす。明石川では自然工法を取り入れた改修がされており、全体的な景観形成も含めて活用を進める。
- 薬師寺周辺は、農村景観保全形成区域にならないか検討する。
- 大規模な稲木、ワラ小積を作り、秋の田園風景作りに役立てる。また、これにより農家の意気込みを示す。また経済効果にも結びつける。
- 「花一杯できれいな集落にしましょう」というスローガンは、里づくり活動に欠かせない事項である。



里づくりをめざす^{おぼたけ}大畑の思い出あれこれ

大畑地区里づくりアドバイザー
神戸大学農学部教授
津川 兵衛



辞書にはまだ公害の文字は見当たらず、林立する工場の煙突からモクモクと吐き出される煙が、敗戦からの復興のシンボルとして小・中学校の社会科の教科書のページを飾っていた半世紀も昔に戻ることになるが、当時わが国の経済は金へん景気で弾みをつけ、世間は次に来た糸へん景気の走りで賑わいを見せていた。これは、明石から播州の著名な織物の町、西脇市へ日に何本もの神姫バス特急便が運行していた時代のことで、私にとってはちょうど遊び盛りの小・中学生時代に当たる。当時の最も鮮明な記憶は、何といても毎年春、夏、冬休みのそれぞれ半分を過ごした大畑（おぼたけ）での思い出話につきる。

大畑には父の実家があって、戦時中私の一家はここへ疎開していた。戦後も食糧難を避けて、私が就学年齢に達するまで、母方の祖母とともに父の実家の世話になっていた。だから、大畑は私の生れ故郷のような気がする。

たぶん、誰かの紹介があり、子供の一人旅ということで、神姫バスは特別に山陽電鉄明石駅近くにあった車庫からの乗車を黙認していたのだろう。そして、いつも車掌のすぐ後に指定席を取ってくれていた。

神姫バス西脇行急行便に乗り、平野町西戸田の平野橋停留所で下車する。平野橋を明石方面へ戻ると、橋のたもとから明石川の上流へ向って川沿いに1本の道が通っていた。当時、その排気音からバタバタと呼ばれ、人気のあったダイハツの小型三輪トラックとか、ミゼットという軽三輪自動車が通れるぐらいの道幅で、雨が降ればたち

まち水溜りができるデコボコ道だった。

この道とその西側の明石川との間を、スズメのお宿になる丈の高いマダケの竹藪が隔てていた。竹藪は幅20m以上あって、時には長くて太い桿が道の方へ倒れかかって通行を邪魔することもあったが、洪水時には堤防がわりを務める大切な役目を担っていた。なお、この竹藪は玉津の出合橋付近に始まり、押部谷の方まで延々と明石川の兩岸を走っていたのである。

道の東側は山すそまで宮前と大畑の農地が開かれ、裏作のムギの栽培が盛んであった。麦畑にはヒバリが舞い上がり、麦秋の到来も間近いことを告げていた。赤と緑の色鮮やかなレンゲの絨毯が敷き詰められている畑もあった。揚げヒバリの長閑な声に聞き入っていたら何だかお腹がすいてきた。土手に腰をおろして、手土産に持参したバナナの房から1本もぎ取って食べてしまったこともある。今では200円も出せば大房のバナナが買えるのだが、当時は輸入品はすべて高価な貴重品であったのだ。



昔の大畑地区

道と竹藪の間にある湧溝ゆみぞの水はいつも澄んでいた。夏場には、時たまここに大きな雷魚が姿を現すことがあるので、夏にこの道を通るときは、藻を掻き分けるように目を凝らして、魚影を探しながら歩いたものだ。この道は平野橋から川原の一軒家まで川沿いに500mほど続き、その先でT字形に分かれていた。右に折れると大畑の集落に向かい、逆に左に曲がれば、竹藪を横切る小道を通り抜けて明石川の川原に出る。渇水期には橋は不要だが、水流のあるときは杭を打ち込んで橋脚を造り、その上に50cmほどの幅で渡した厚板が橋がわりだ。人が渡るとたわんできしんだ。

大畑(父方)の祖母は常本からの帰り道、渡し場の辺りで性悪狐に油アゲをよく取られたそう。その話をなんども聞いた。

「わしは、よお狐に化かされたでよ」

火鉢の前で、火照った皺だらけの顔を掌で撫ぜながら、さも楽しげに大笑いするときの祖母の顔が今でも臉に浮かぶ。ちなみに、この狐は『寸尺のおちょぼ』と呼ばれていたと、里づくり協議会の席上で地区の方から伺った。さて、今でもこの辺りで何か悪さをしているだろうか。

道の分岐点の近くには、いつも堆肥を積んである場所があった。そこは土がよく肥えているものだから、春には太いイタドリの新苗が採れる秘密の場所だった。

道を右に折れて200mほど進んで、少し急な坂道を登り始める辺りで大畑の集落に入る。昔の人は耕作しやすい平坦地は農地にまわし、住宅は山麓部に建てたものだ。大畑も山麓につくられた典型的な村だった。

平野橋から大畑に至るこの道は、今では舗装されているものの1本の農道にすぎないが、当時は砂利道であっても西戸田から大畑への主要な生活道路であり、押部谷まで通じていた。だから、押部谷の人が明石へ出る場合には堅田、繁田、常本、大畑経由で西戸田まで自転車を飛ばし、そこでバ

スを拾ったものである。

大畑の集落の人口には水量が豊富で、いつもきれいな水が流れている洗い場があった。収穫した野菜、農作業で汚れた手足や農具を洗い、洗濯もする。手を動かしながらの四方山話は尽きることがない。何よりも噂話に花が咲く。ここは一種の情報交換の場であり、社交場でもあったのだ。いつ通りがかったら、数人がそこで水を使っていた。

大畑から奥の地区の人であっても、平野橋へ通じるこの道を通勤路に使うたいの人の住所、名前、勤務先などは何となくわかっていたようだ。登り坂を自転車を押して家路をたどる人の背後では、出身地、縁談の有無、就職先について、あるいはまた今日の服装から、帰宅時間の早い遅いに至るまで、何かと噂が囁きかわされていることを私はよく知っていた。だから、私が風呂敷包みを右手、左手と、とっかえひっかえ持ち替えながら、疲れた足どりで胸突き八丁へさしかかる姿を見て、「また明石の子がやって来た」という囁きに、「ほんまや」とか、「そやそや」とか合の手が入る様子が手にとるようにわかった。

坂の突き辺りは高みになっていて、火の見櫓が立っている。ついぞ半鐘が鳴るのを聞いたことはなかったが、村に一大事が起これば、たちまち鳴り響く手筈になっている。片脇にたくさんの実を着けるウメの古木があった。ここまで来ると、目的地の父の実家の門まであと10mだ。平野橋から道草を食いながら子供の足で小一時間はかかっている。

納屋の屋根を延長して端を壁で支えた農家風の門を入ると、初冬なら庭の真中に糶殻を山形に積んで燻炭づくりの最中だ。頂には土管が煙突がわりに立ててあり、糶殻は奥の方で静かに燻ぶっていて、次第に炭に変わってゆく。これは火鉢や炬燵の灰になり、温床にも使い、畑に撒いては作物のマルチに用いられた。

くの字に並んだ正方形の飛び石は、庭がぬかるんだ日でも来客を容易に玄関まで導いてくれた。しかし、木製の片引き戸は重いうえに、底部についている鉄のこまの滑りが悪く、いつも私のような弱い来客を阻むのには閉口した。当時はガラスが現在ほど普及していなくて、引戸の下半分は板張りで、上半分は障子張りだった。戸の障子の最下段の右の隅の枠だけは、中央に丸い穴があいた板がはめ込まれていた。家の内部を覗くのに都合が良かった。

私が戸を懸命に引き開けようとするのを最初に気付いてくれたのは、玄関脇の牛房に陣取る赤牛(?)のようだった。奥の方でゴソゴソ音がする。ある晩のこと、この牛は牛泥棒に連れ出されたが、逃げ帰ってきたという。当時、食糧難が叫ばれても、化学肥料はまだ十分に出まわっていなかった。大樽を積んだ荷車をこの牛に引かせて、明石方面まで下肥汲みに出掛けたものだが、その荷車に便乗して明石の家に帰ったことを覚えている。

続いて飼犬の仁が吠えながら戸口まで駆け出してきた。掛け声とともに開けた戸口から「仁よ、仁よ」と呼びかけると、この老犬は「何んだ、またやって来たのか」といったげな顔をこちらに向けた。私を見ては、ゆっくりと尻尾を振りながら、足元の臭いを嗅いだだけで、所在なげに奥へ引っ込んだ。

「こんにちは、誰かいる」と声を掛けても返事はない。奥へ進むと、左側は客間、板の間と続く。右側は牛房、風呂場、その次に土間があって、そこには大小の鍋や釜を5、6個は同時に煮たきできる大きなかまどがしつらえてあった。焚口は同数あり、これらは一つのくど（かまどの後につけた煙を出すための穴）にまとめられ、煙はその上に立つ1本の太い煙突から屋外に出てゆく仕組みになっていた。大釜からはいつも湯気が立ち上っていた。これは、米の研ぎ汁や野菜くず、その他残飯を投げ入れ

ておいては、ゆっくりと煮て牛の餌をつくっているところだ。

壁を隔ててかまどの反対側に台所があり、水は井戸から手押しポンプで汲上げていた。井戸水は冬は温かく、夏は冷たかった。この井戸で冷やしたトマト、スイカ、マクワウリの格別な味を今でも懐かしく思い出す。

中庭には小さな鶏舎があって、七色に光るアワビの貝殻をイタチ避けに吊した金網のむこう側では、数羽の鶏がうづくまって休んでいる。私が近づくとうす目を開けた。中庭の裏の棟は旧蚕室であるが、養蚕は遠の昔に止めていて、当時は農具が収納してあったり、精米機置き場になっていた。昭和30（1955～64）年代後半までは、明石に国の蚕糸試験場があったのだが、大畑の養蚕はもっと前に廃れてしまっていた。それでも私の子供の頃には、ヤナギの枝に繭玉に模した赤白の小さな餅玉を飾って正月を祝う風習は残っていたようだ。

旧蚕室の裏にある、ハチクの竹藪で囲まれた小さな菜園を覗いてみても誰もいない。留守であることを確かめると、次に目ざすのは、板の間の隅にある錬鉄の大火鉢だ。火箸で真新しい燠炭の灰をほじくってホカホカの焼芋を取り出した。少し細めで肉は黄色。フウフウ吹きながら頬張ると、甘い香りが口いっぱいになり、とても幸せな気分になった。



昔のイチジク栽培

「兵よ、よお来たのお」というのが祖父の開口一番の歓迎の言葉で、手には自ら稲藁をなつて編んだ小さな草履がのっていた。そんな短い言葉の端にも、溢れんばかりの深い慈愛の情がこもっていることを私は素早く感じ取っていた。今(2002)年は祖父の没後50年に当たる。4月に50回忌の法事が営まれることになっている。

夏休みのある日のこと、早朝から一家総出のキャンピョウ剥きを手伝った後で、朝食をすませると、早速草履を突掛けて新宅の従兄弟達のところへ遊びに出た。夏の日課の一つは前掛け網を小脇に抱えて、バケツを振り回しながら雑魚取りに出かけることだった。近くの小溝伝いに常本、繁田の方まで遠出することもあり、また明石川へ降りていくこともあった。小溝伝いの雑魚取りはいつも大漁だった。フナ、ナマズ、時にはコイ、ウナギも前掛け網に入ってきた。しかし、魚取りに熱中するがあまり、田圃への取水用の水貯めの樋を抜いてしまって、水守り番のお爺さんに追掛けられたこともあった。腹いせにその家のミョウガを抜き取ってしまった。このことを思い出すと、今だに慙愧の念に堪えないでいる。

明石川は夏枯れ時には水流はなく、あちこちに水溜りができていた。タデ類の一種を石で叩き潰して水中へ投げ込んでしばらくすると、小魚がプカプカ浮きだした。ハエやモロコだ。

田舎には町では体験できない遊びがたくさんあった。特にやんちゃ盛りの腕白坊主にはこたえられない楽しみ事だ。初夏の青青とした田圃を渡って雛鳥のために餌を捕え、戸口の巣に帰り着こうとする親ツバメに「燕返し」と称して棒で打ちかかり、叱られもした。音無しくしているかと思えば、お薬師さんの軒の下の蟻地獄にアリを落とし込んで、アリが宿主(ウスバカゲロウの幼虫)に挿り鉢の底へ引ずり込まれそうになると、細い棒を差し出して救出するのに余念がなかった。

このように、昼間は新宅の従兄弟達と遊び歩き、夜には主家へ寝に帰るのが大畑での私の一日の生活パターンになっていた。そして、電灯を消して、開け放たれた縁側の向こうの水田でワルツの調べに乗って乱舞するホテルを、蚊帳越しに眺めるのも就寝前のひとときの楽しみだった。

しかし、なかには恐い記憶もある。野良仕事に付いて出て、遊び疲れてふご(円形の底部をもつ稲藁製の穀物等運搬用具、天秤棒でになって使う)に入って寝込んでしまっていたところ、超低空で飛来する米軍艦載機の爆音に驚かされて、麦畑の隅の鎮守の森へ逃げ込もうとしたときのことを思い出す。ほんの10mたらずの距離を走りきれなくて転倒してしまった。起き上がる間もなく、大きな黒い影と号音が頭上を通過していった。このことはしばしば夢にさえ見てうなされたものである。また、あるとき柿の木から落下して気絶してしまった。近くには病院はない、救急車もない、まだ自家用車が普及していなかった時代のことである。周囲の人たちは動転して、狼狽していると、たまたま白装束の山伏風の人が通りかかり、助けてくれたという。鎌で足首付近を切ったこともあった。あまりの出血の多さに自分でもびっくりしてしまった。今でも大きな傷跡が残っている。

あれから50年の歳月を経て、明石川沿いの竹藪は姿を消し、川原の1本道は農用以外の車両の通行はなくなってしまった。雑魚を追った小溝、ヨモギやツクシを摘んだ畦畔は、私の追憶の中だけのものになってしまったのだろうか。

お盆には、仏前に供えるハスの花を取り、また鉦をたたいて先祖を送ったあの池は、埋め立てられて立派な公会堂が建っている。時には、松籟に運ばれて来る遠方の列車の汽笛を聞くために登ったあの山は、そしてマツタケやシバハリがよく採れたあの山は、西神ニュータウンという新興の大住宅地に変容してしまっている。このよう

に取り戻せないものはしかたがないが、失われてしまったものでも、復活が可能で後世まで伝承すべきものは復活させよう。伝統芸能の獅子舞の復活を好例としよう。

米軍機を避けて逃げ込もうとしたヤマモモの森はとつくに姿を消したが、^{ほころ}祠は元の場所に鎮座ましましている。その先には、立派な老人ホームが出現した。道を隔てて、建物の正面には駐車場も備わっている。この辺りから神出の大坂、さらには雌崗、雄崗の山々を望む田園の眺めは一幅の風景画としての趣を残している。遠くのお寺で朝夕に突く鐘の音に耳を澄ませ、窓辺に写るこの光景に瞳を移すひとときは、療養生活に励むお年寄りの心に静謐を与えてくれるものではないか。その他、傾斜地畑に設けられた貸し農園も昔はなかったものだ。冬枯れ景色の中で、借地人は野菜づくりに精出している。このように新しくできた施設でも地域に取り込んでどのように活用すべきか考えてみよう。積極的に取り組む姿勢があれば里づくりの一つの柱になるはずだ。

集落を縫うように走る農免道路ができ、定期バスが運行するようになってからすでに 35 年がたつ。道路の開通や定期バスの運行は、大畑地区住民の生活に大きな変化をもたらしたことは想像するに難くない。通勤、買い物、病院通いが楽になった。また、地下鉄を使って、市の中心部まですぐに行けるようになった。反面、交通事故、防犯上の不安が増した。このように、開発と環境破壊、便利さと危険は表裏一体のものである。

だから、「里づくりのために何でも活用してやろう！」という気概の下で、状況に思慮深く対処しながら、

① ときには隣のニュータウンの台所となり、そこに住む人々と共存共栄を計ろう。そして、「大畑いいところ、一度はおいで」と友を誘うことも悪くない。

② 昔のままの風景を残すことも大切だが、一方で時代にマッチした景観創成をも視野に入れておこう。

③ 健康、福祉、憩いとゆとりのある田園生活を標榜して、緑豊かで、静かで、清潔で、しかも安全な里づくりを心掛けよう。

品格ある大畑の里を子孫に伝えることこそ、今ここで里づくりに携わる私たちの至高の使命とすべきである。



昔は田でレンコンを栽培していました

大畑里づくり協議会活動実績

会議名等	年月日	地元参集範囲	内容
大畑里づくり協議会	平成13年 9月8日	全戸	計画策定についての協議 アンケートの回収
現地調査	平成13年 9月22日	役員	地区点検, 獅子舞の調査
女性座談会	平成13年 9月26日	婦人会会員	地区点検, 組織活動調査
現地調査	平成13年 12月13日	役員	地区点検
大畑里づくり協議会	平成13年 12月20日	全戸	計画策定中間報告 農業問題調査
現地調査	平成14年 1月17日	役員	地区点検
現地調査	平成14年 1月24日	全戸	地区点検
大畑里づくり協議会	平成14年 3月16日	全戸	計画の承認

大畑里づくり協議会 役員名簿

平成14年1月16日現在

